

平成28年度  
埼玉県 地域経済分析システム  
操作研修テキスト



# 目次

---

## 第1章 はじめに

- 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは
- 1-2 地域経済分析システムの活用事例
- 1-3 多様な主体へのRESAS普及状況
- 1-4 データ分析に基づく論理的な思考の重要性

## 第2章 各マップの機能と分析方法

- 2-1 人口マップ
- 2-2 観光マップ
- 2-3 地域経済循環マップ
- 2-4 産業マップ
- 2-5 農業マップ
- 2-6 消費マップ
- 2-7 自治体比較マップ

## 第3章 RESAS以外の官庁系オープンデータの紹介

# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

---

## RESASの開発背景

- ▶ 人口減少、過疎化が構造的に進展し、疲弊する地域経済を真の意味で活性化させていくためには、地方自治体が、地域の現状・実態を正確に把握した上で、地域の実情・特性に応じた、自発的かつ効率的な政策立案とその実行が不可欠。
- ▶ 国が、地域経済に係わる様々なビッグデータを収集し、かつ、「見える化（可視化）」するシステムを構築し、**客観的なデータの取得・分析を容易にすることで、真に効果的な政策や事業の立案、実行、検証（PDCA）を支援**することを目的に、平成27年4月より運用を開始。



# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

---

## RESASの機能

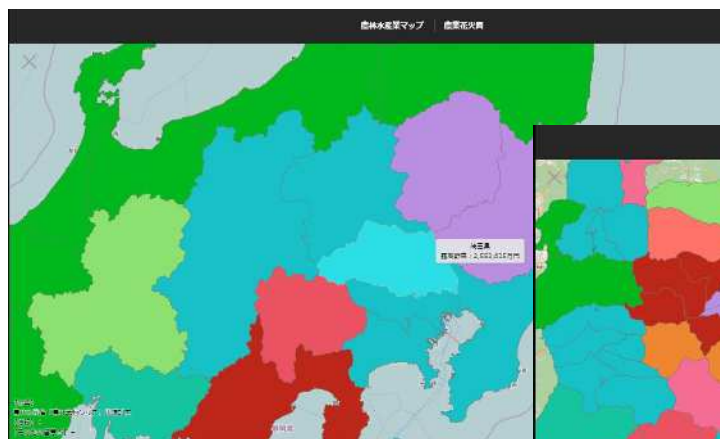
- ▶ パソコンやスマートフォンのブラウザ（Google Chrome推奨）を通じていつでも、何処でも、誰でも閲覧可能。
- ▶ 公的なデータ（国勢調査、経済センサス、農林業センサス等）のみならず、民間企業のデータも搭載。帝国データバンクが提供する企業間取引データのみ、国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能。
- ▶ 最新性及びニーズ等を重視を踏まえて、データ・機能は随時更新・追加される予定。（平成27年度は大規模な機能追加を3回実施。）



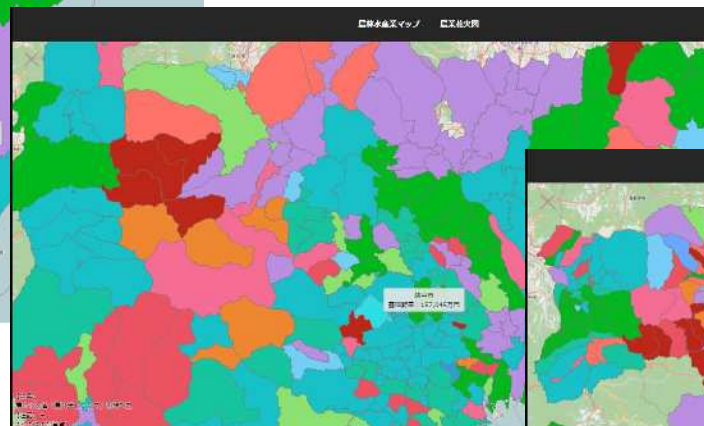
# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## RESASの特徴（1）

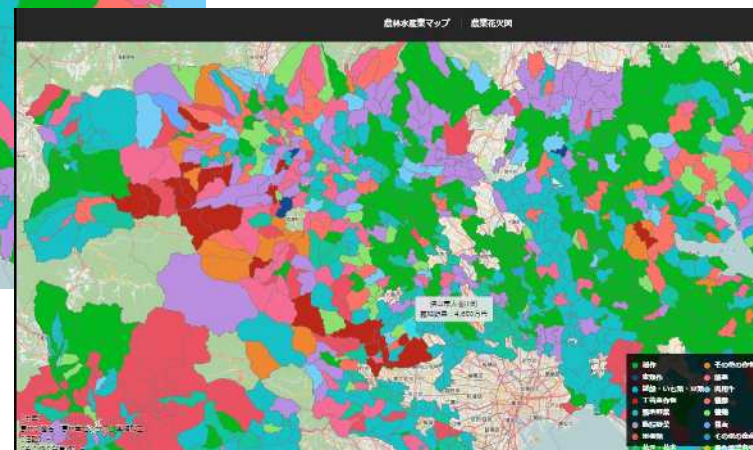
- ▶ 様々な行政単位（都道府県、市町村、旧市町村（一部））でデータを閲覧可能。



都道府県



市町村

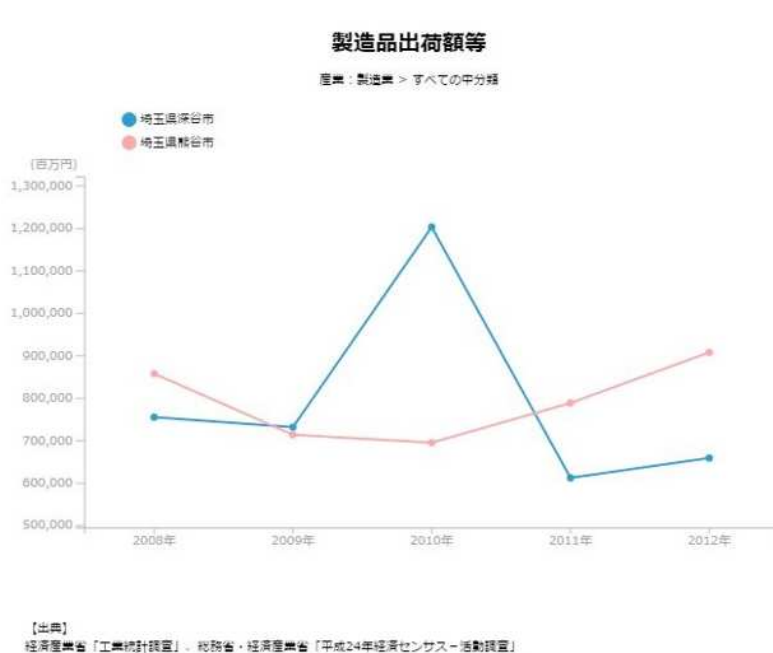


旧市町村

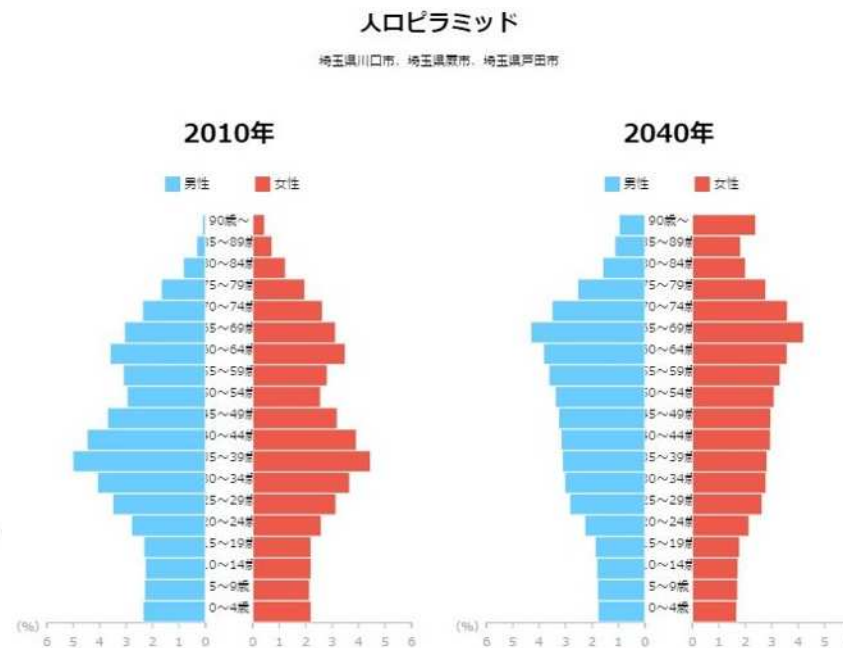
# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## RESASの特徴（2）

- ▶ 自治体間比較や自治体を越えた圏域（例：県内の地域振興センター）単位でのデータ合算が可能。



比較例  
(深谷市・本庄市)

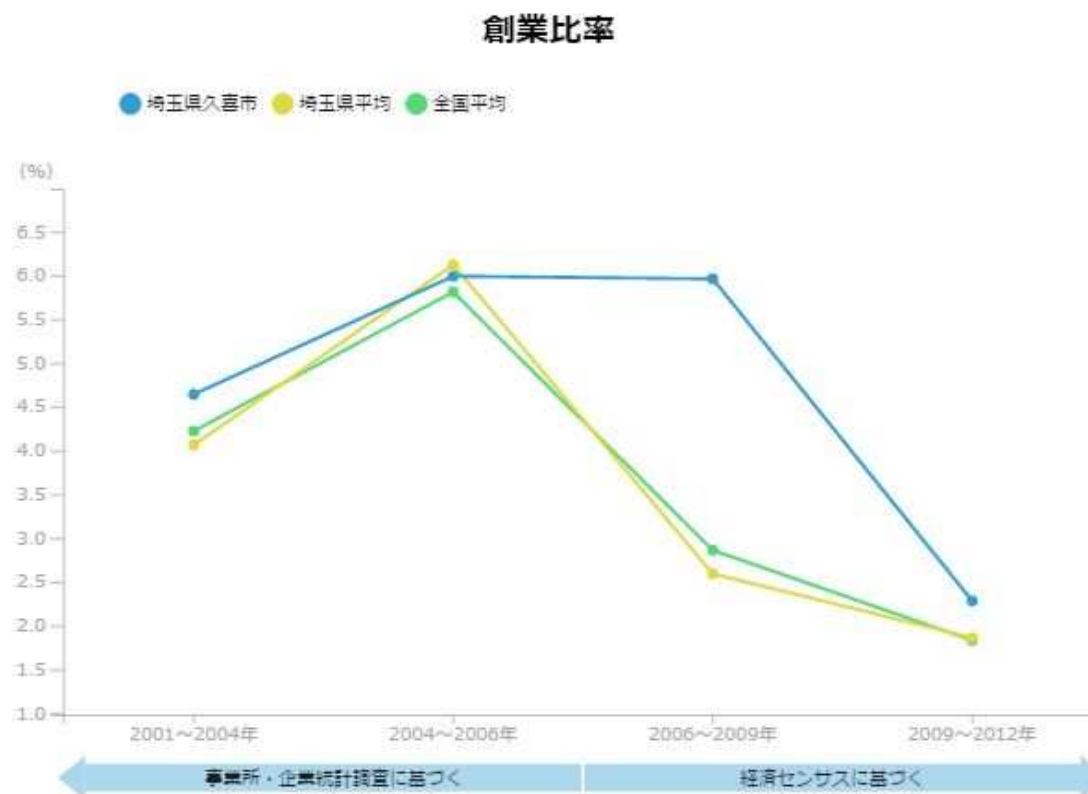


合算例  
(南部地域(川口市・蕨市・戸田市))

# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## RESASの特徴（3）

- ▶ 時系列での比較が可能。



創業比率の時系列比較(久喜市)

# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## マップ一覧（平成28年10月現在）

<b>1. 産業マップ</b> 1-1. 全産業花火図(一般/限定(※)) 1-2. 産業別花火図 (※) 1-3. 企業別花火図 (※) 1-4. 稼働力分析 1-5. 製造業花火図 1-6. 製造業の地域間比較 1-7. 中小・小規模企業財務比較 1-8. 研究開発費の地域間比較 1-9. 特許分布図 1-10. 事業所立地動向 1-11. 輸出入花火図 1-12. 企業の海外取引額分析 1-13. 海外への企業進出動向	3-3. 水産業マップ 3-3-1. 海面漁業マップ 3-3-1-1. 海面漁獲物販売金額 3-3-1-2. 海面漁船・養殖面積等分析 3-3-1-3. 海面漁業者分析 3-3-2. 内水面漁業マップ 3-3-2-1. 内水面漁獲物等販売金額 3-3-2-2. 内水面漁船・養殖面積等分析 3-3-2-3. 内水面漁業者分析	<b>6. 消費マップ</b> 6-1. 商業花火図 6-2. 商業の地域間比較 6-3. 消費花火図 6-4. From-to分析（消費動向）
<b>2. 地域経済循環マップ</b> 2-1. 地域経済循環図 2-2. 生産分析 2-3. 分配分析 2-4. 支出分析 2-5. 労働生産性等の動向分析	<b>4. 観光マップ</b> 4-1. From-to分析（滞在人口） 4-2. 滞在人口率 4-3. メッシュ分析（流動人口） 4-4. 目的地分析 4-5. 外国人訪問分析 4-6. 外国人滞在分析 4-7. 外国人メッシュ分析 4-8. 外国人入出国空港分析 4-9. 外国人移動相関分析 4-10. 外国人消費花火図 4-11. 外国人消費分析	<b>7. 自治体比較マップ</b> 7-1. 経済構造 7-1-1. 企業数 7-1-2. 事業所数 7-1-3. 従業者数 7-1-4. 製造品出荷額等 7-1-5. 年間商品販売額 7-1-6. 付加価値額 7-1-7. 労働生産性 7-2. 企業活動 7-2-1. 創業比率 7-2-2. 黒字赤字企業比率 7-2-3. 経営者平均年齢(※) 7-3. 労働環境 7-3-1. 有効求人倍率 7-3-2. 一人当たり賃金 7-4. 地方財政 7-4-1. 自治体財政状況の比較 7-4-2. 一人当たり地方税 7-4-3. 一人当たり市町村民税法人分 7-4-4. 一人当たり固定資産税
<b>3. 農林水産業マップ</b> 3-1. 農業マップ 3-1-1. 農業花火図 3-1-2. 農産物販売金額 3-1-3. 農地分析 3-1-4. 農業者分析 3-2. 林業マップ 3-2-1. 林業総収入 3-2-2. 山林分析 3-2-3. 林業者分析	<b>5. 人口マップ</b> 5-1. 人口構成 5-2. 人口増減 5-3. 人口の自然増減 (地域少子化・働き方指標（散布図）) 5-4. 人口の社会増減 5-5. 将来人口推計	黒字：従来メニュー 赤字：28年度 第1次リリース分

※ 国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能な「限定メニュー」

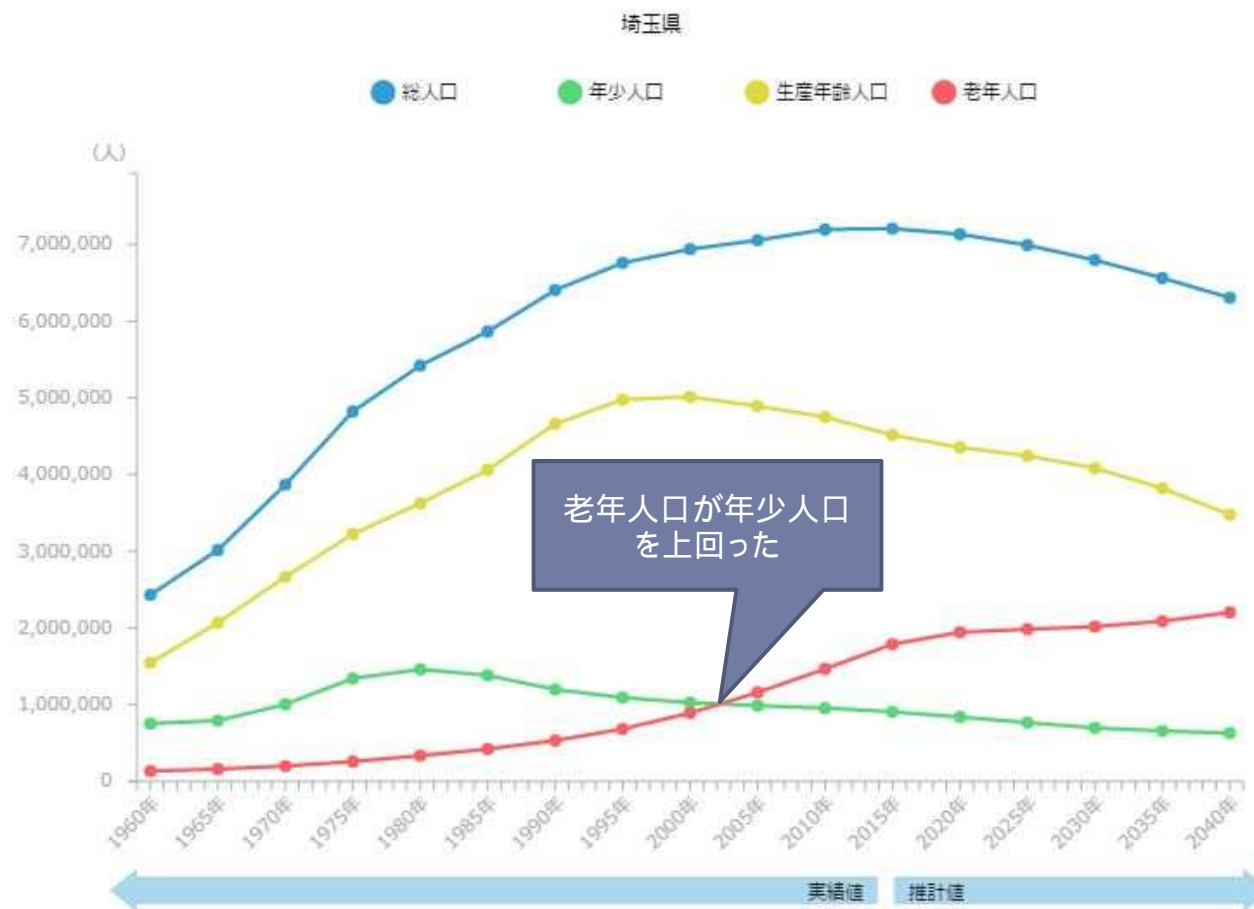
出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成資料より画像を転載



# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## RESASによる埼玉県の概況（1）

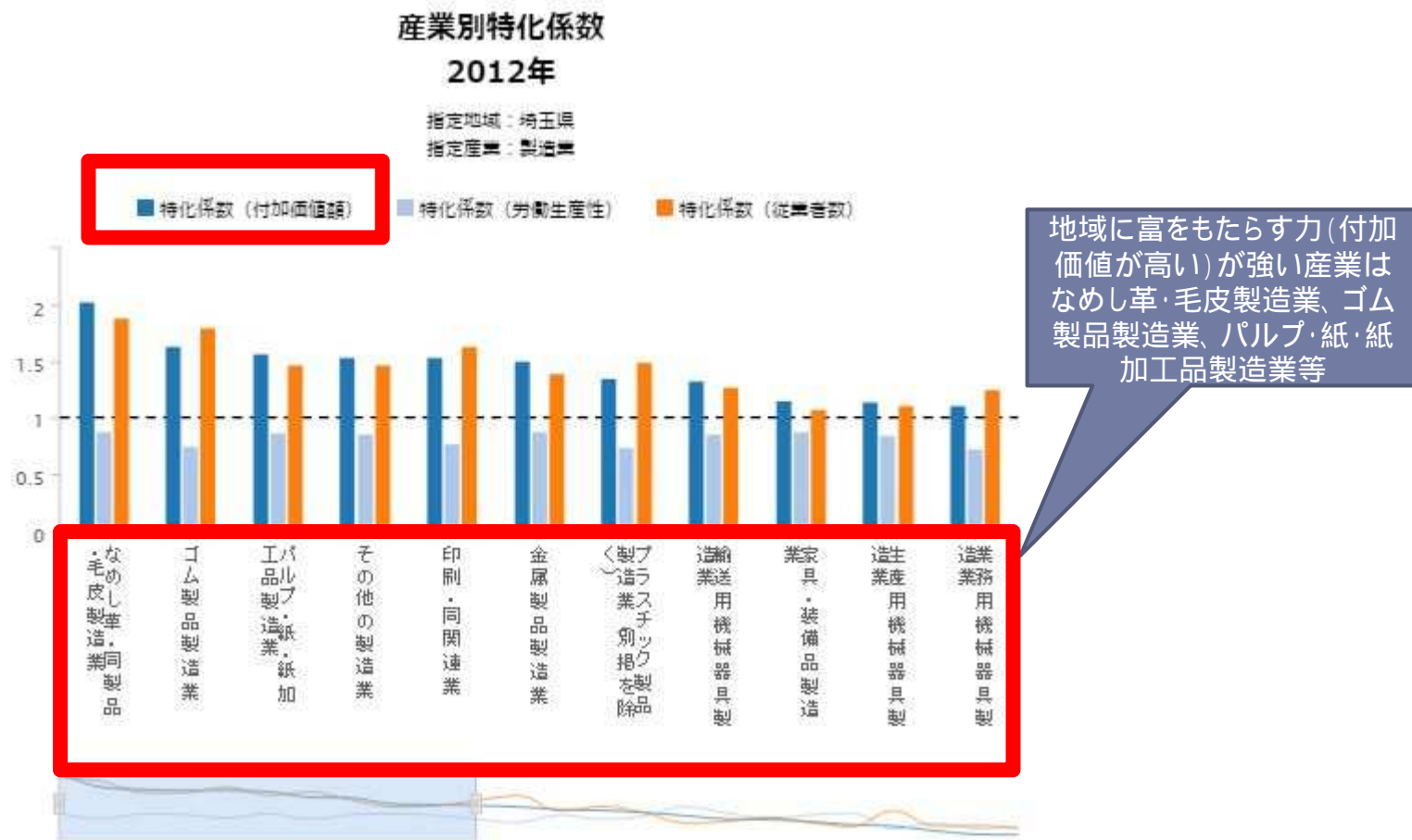
- ▶ 現在及び将来の人口構成（人口マップ（人口構成））



# 1-1 地域経済分析システム (RESAS) とは

## RESASによる埼玉県の概況 (2)

### ▶ 稼ぐ力分析 (産業マップ (産業別特化係数 (付加価値額)))



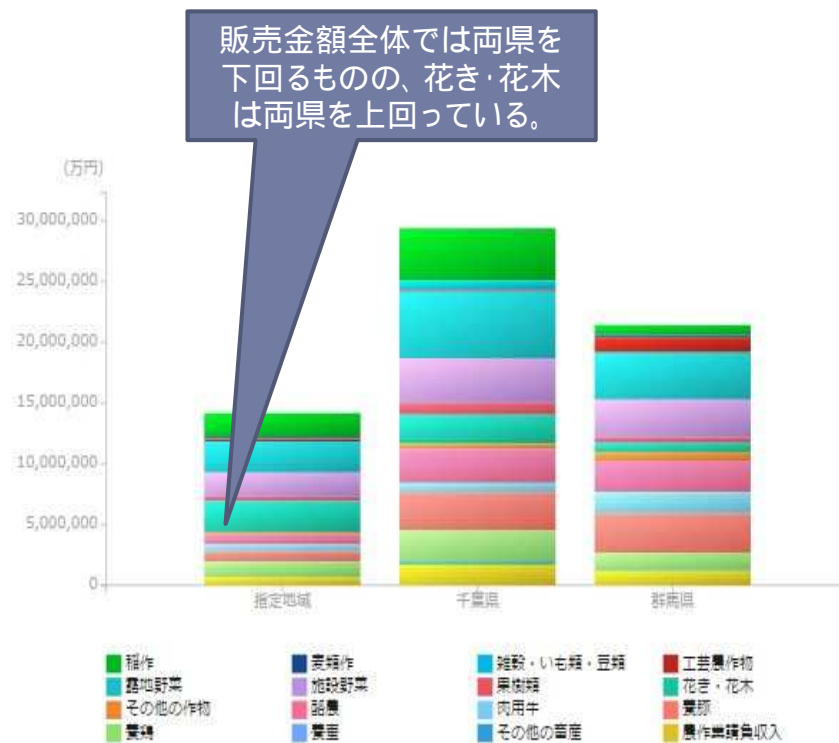
# 1-1 地域経済分析システム (RESAS) とは

## RESASによる埼玉県の概況 (3)

### ▶ 農業部門別販売金額 (農林水産業マップ)



農業花火図 (埼玉県)



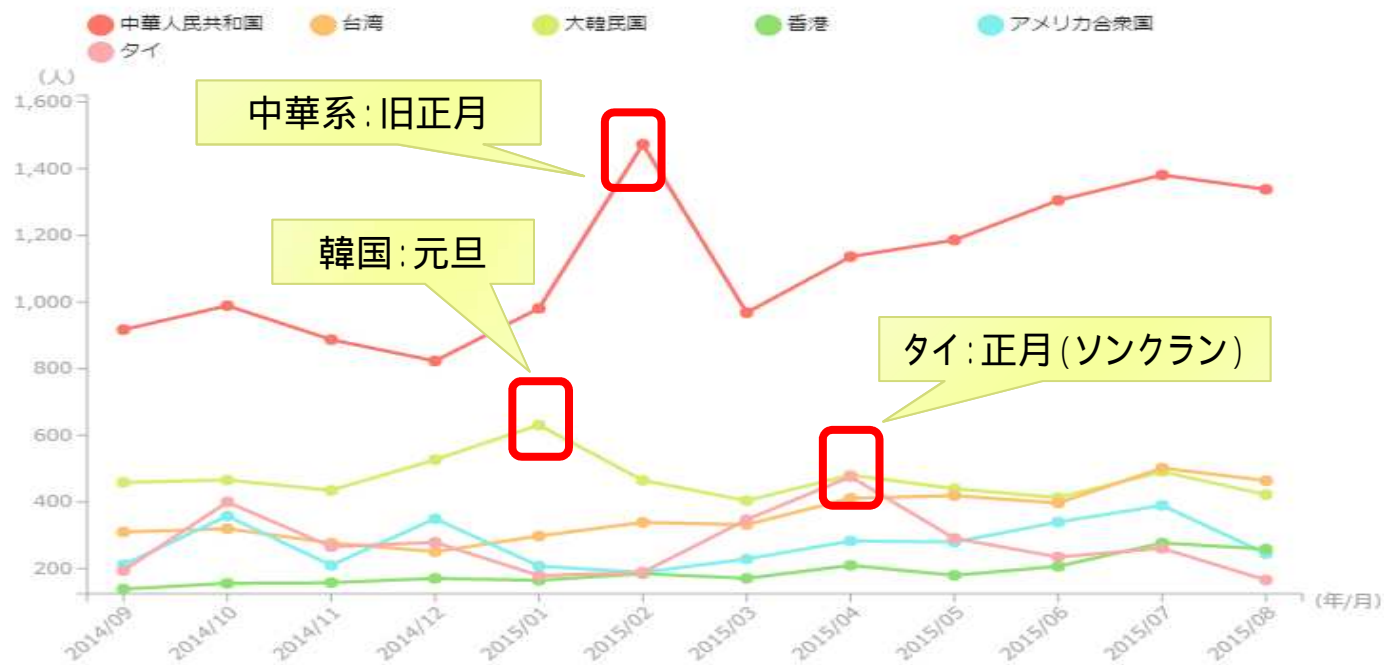
千葉県・群馬県との比較

# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## RESASによる埼玉県の概況（4）

### ▶ 国籍別訪問者数の推移（観光マップ）

埼玉県 国籍別平均滞在者数の推移（2014/9～2015/8）



# 1-1 地域経済分析システム（RESAS）とは

## RESASによる埼玉県の概況（5）

- ▶ 自治体のお金の流入・流出状況（地域経済循環マップ）
- ▶ 農業部門別の販売金額の割合（農林水産業マップ）
- ▶ 人口の転入・転出先（人口マップ）
- ▶ 各種指標の地方自治体間での比較（自治体比較マップ）



出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成資料より画像を転載

## 1-2 地域経済分析システムの活用事例

---

### 分析事例（産業構造分析（三重県））

県の産業振興戦略改定にあたり、県内を5地域に分け、それぞれの地域における産業構造分析を行うことで、地域性を活かした戦略策定を目指した。地域ごとの産業構造の差異を可視化することができ、感覚ではなくデータに基づいた、地域ごとの戦略策定に役立っている。

例：製造業の競争力強化は北勢地域（四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市等）で重点的に実施することが効果的

活用マップ

産業マップ（全産業花火図 自治体職員限定メニュー）

出典：地域経済分析システム利活用事例集（平成28年 経済産業省）

# 1-2 地域経済分析システムの活用事例

## 分析事例（産業構造分析（三重県））



出典：地域経済分析システム活用事例集（平成28年 経済産業省）

## 1-2 地域経済分析システムの活用事例

### 分析事例（観光産業分析（福岡県うきは市））

観光入込客数が減少する中、域内経済循環を高める上で重要となる宿泊業、飲食店の活性化を図るため、観光の現状分析を行った。

うきは市を訪れる人がどこから来ているのか（From-to分析、メッシュ分析）をみると、福岡県内は隣接の朝倉市・久留米市から、県外は大分県日田市、大分市、佐賀県鳥栖市、佐賀市等からの来訪が多く、これまで観光PRを積極的に行ってきた福岡都市圏（福岡市、北九州市等）だけではなく、上記の自治体に対しても展開することが重要であることがわかった。

活用マップ

観光マップ

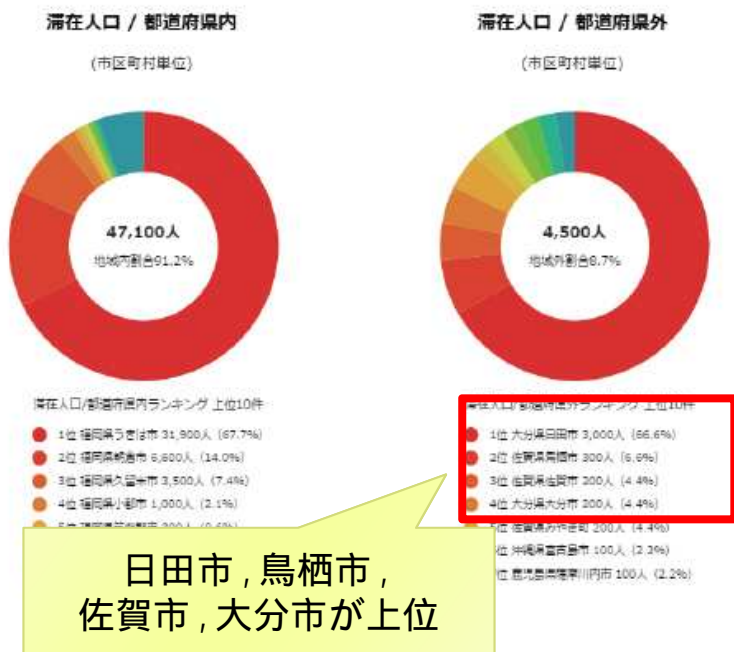
出典：地域経済分析システム利活用事例集（平成28年 経済産業省）



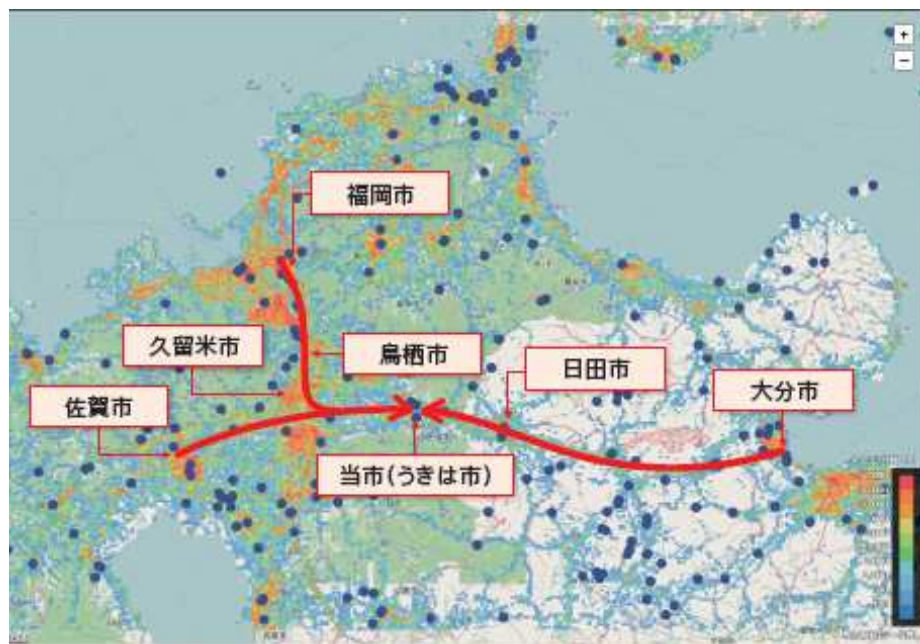
# 1-2 地域経済分析システムの活用事例

## 分析事例（観光産業分析（福岡県うきは市））

福岡県うきは市 From-to 分析  
（2014年休日）



福岡県うきは市 メッシュ分析（流動人口）  
（2014年休日）



出典：地域経済分析システム活用事例集（平成28年 経済産業省）

## 1-2 地域経済分析システムの活用事例

### 分析事例（農業分析（徳島県美馬市））

美馬市は養鶏をはじめ、古くから農業が盛んであり、ゆず、はっさく等の産地として知られる一方、農業生産者の高齢化が進行しており、担い手不足が加速することが予想される。今後の農業振興策を検討するために、**農業の現状分析**を行った。

農業花火図をみると、販売金額が最も多いのは、**市担当者の直感とは異なり、養鶏ではなく花き・花木**であった。美馬市はシンビジウム（洋ランの一種）の生産量が日本一であり、育成と種苗生産で全国の約80%のシェアを誇る企業があることが影響していた。一方で、**販売金額の経年比較**を見ると、**養鶏や露地野菜において減少幅が特に大きい**ことが分かった。

この結果から、**花き・花木部門を維持・振興**するだけでなく、**現状のニーズに合わせた農作物の多様化を図る必要性**を認識し、農作物のブランド化による付加価値の向上や、生産・販路拡大などを通じた農業者所得向上を目指している。

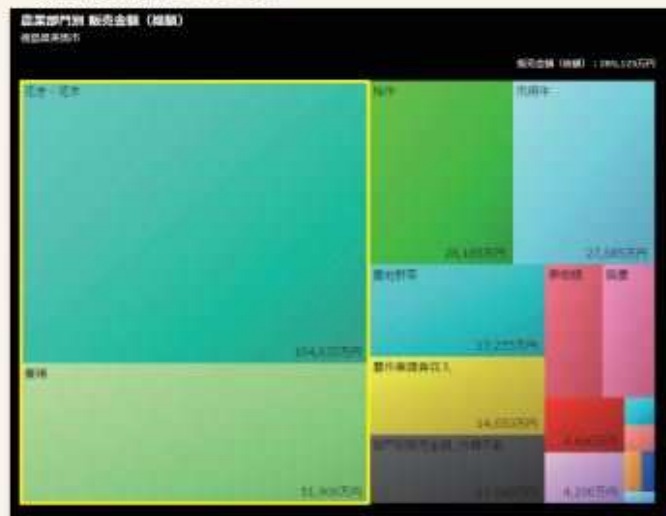
活用マップ ▶ 農林水産業マップ

出典：地域経済分析システム利活用事例集（平成28年 経済産業省）

# 1-2 地域経済分析システムの活用事例

## 分析事例（農業分析（徳島県美馬市））

■(第11-1-1図)農林水産業マップ 農業花火図 農業部門別販売金額(総額)  
[徳島県美馬市 2010年]



**Point!**  
美馬市における販売金額が最も多い農作物は「花き・花木」で、全体の約36.7%を占める。次に養鶏で、全体の約18.2%を占める。



■(第11-1-2図)農林水産業マップ 農業花火図 農業部門別販売金額(総額)  
[徳島県美馬市 2005年 2010年] 再編加工



**Point!**  
花き・花木以外では、2005年から2010年にかけて販売金額が減少しているものが多く、特に養鶏、露地野菜、工芸農作物において減少幅が大きい。



出典：地域経済分析システム活用事例集（平成28年 経済産業省）

## 1-3 多様な主体へのRESAS普及状況

- ▶ 各地のNPOや地域住民がRESASを使って自分の故郷や地域を分析して、地域について語り合ったり、インターネット上で投稿したりするなど、新しい動きを創出。
- ▶ RESASが普及することにより、多様な主体が地域について語り合える「共通言語」としての役割が期待される。



6/11(木) 主催：合同会社いとへん  
「RESASって何？どうやって地域に活かせるの？」（三鷹市）



7/11(土) 主催：国立RESAS研究会  
「RESAS BAR 地方創生まちづくり勉強会 @国立」



7/12(日) 主催：好齢ビジネスパートナーズ  
「データを活かして地方創生アイデアソン！  
～地域経済分析システム「RESAS」活用講座～」（三鷹市）



10/18(日) 主催：Code for Tokyo  
Civic Hack Day「RESASを使って地域の課題を発見しよう！」



11/26(木)  
主催：チーム24分ですむまち西東京  
「西東京RESASカフェ」



12/10(木) 主催：NPO法人マイスタイル  
「BAR RESAS」第3回（RESAS×観光）  
（小平市）  
<http://mystyle-kodaira.net/event/barresas/>

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成資料より画像を転載

## 1-3 多様な主体へのRESAS普及状況

---

### (参考) 地方創生 政策アイデアコンテスト2015

- ▶ RESASを活用して自らの地域を分析し、地域を元気にするような政策アイデアを国民から募集
- ▶ 募集区分：高校生以下の部 / 大学生以上一般の部  
    **応募総数907件**（うち、高校生以下の部：206件）



石破地方創生担当大臣と受賞者全員で記念撮影

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成資料より画像を転載

## 1-4 データ分析に基づく論理的な思考の重要性

---

- ▶ 地域で発生・懸念される課題の解決にあたっては、地域の実情に即して政策を形どり、展開することが重要。
- ▶ その際、**みんなで進めるまちづくりであるからこそ、個人の思いつきや勘で進めるのではなく、データに基づき、議論しながら論理的に検討していくことが有効。**

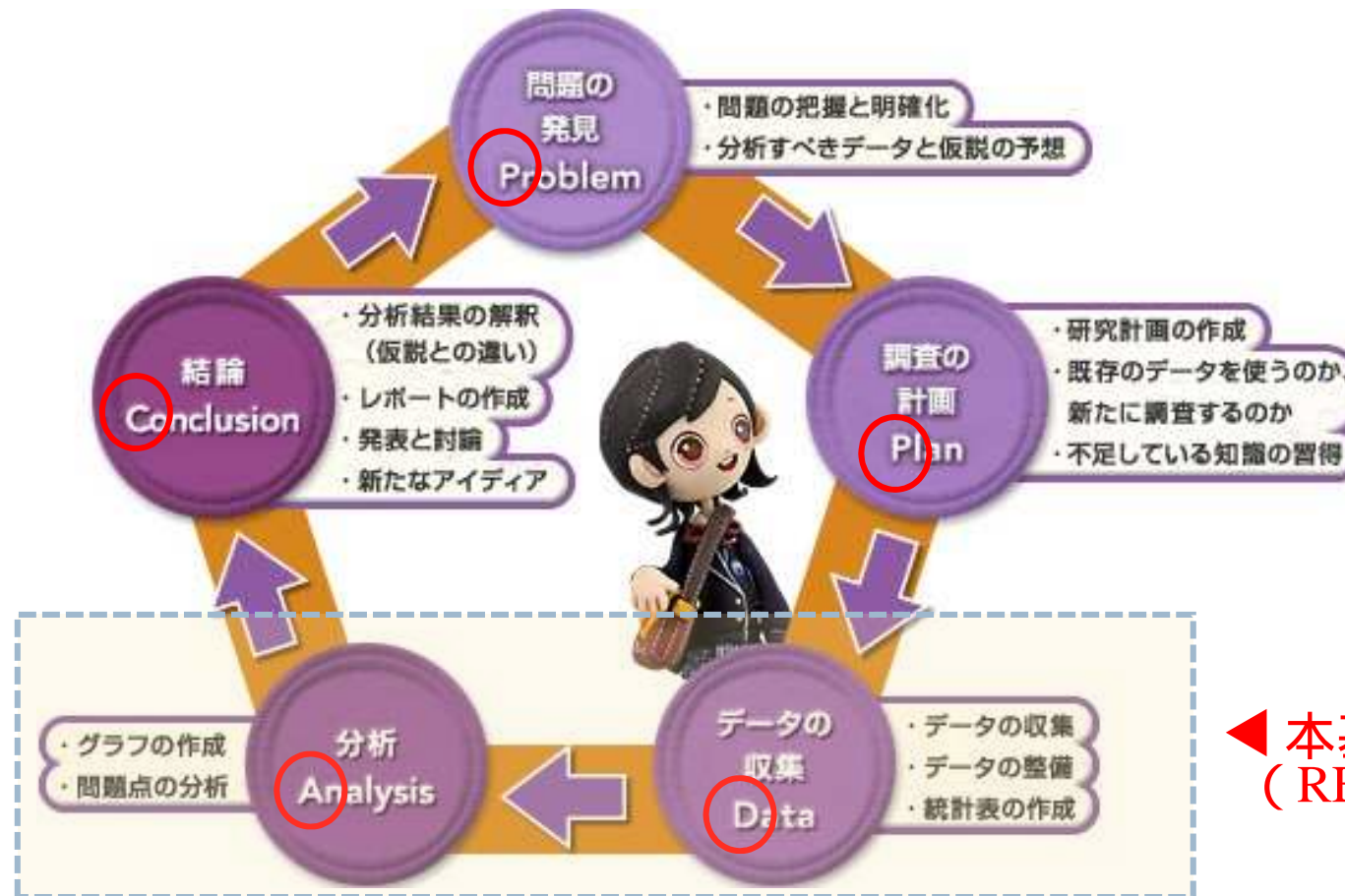
### 有効な場面（例）

- ▶ 上司や財政部局、首長といった意思決定をする人に、意図や期待される効果を正しく伝える
- ▶ まちづくりを進める際、県民や各種事業者、団体に理解いただき、参画・協力をいただく
- ▶ 課内の同僚や庁内他部局の職員らと意思疎通を図るとともにモチベーションを高め合って事業を行う
- ▶ 地域資源や限られた予算・人材を有効に活用し、効率的かつ効果的に事業を展開して成果を得る

# 1-4 データ分析に基づく論理的な思考の重要性

## 問題解決・政策検討のながれ

問題解決のフレームワーク「PPDACサイクル」



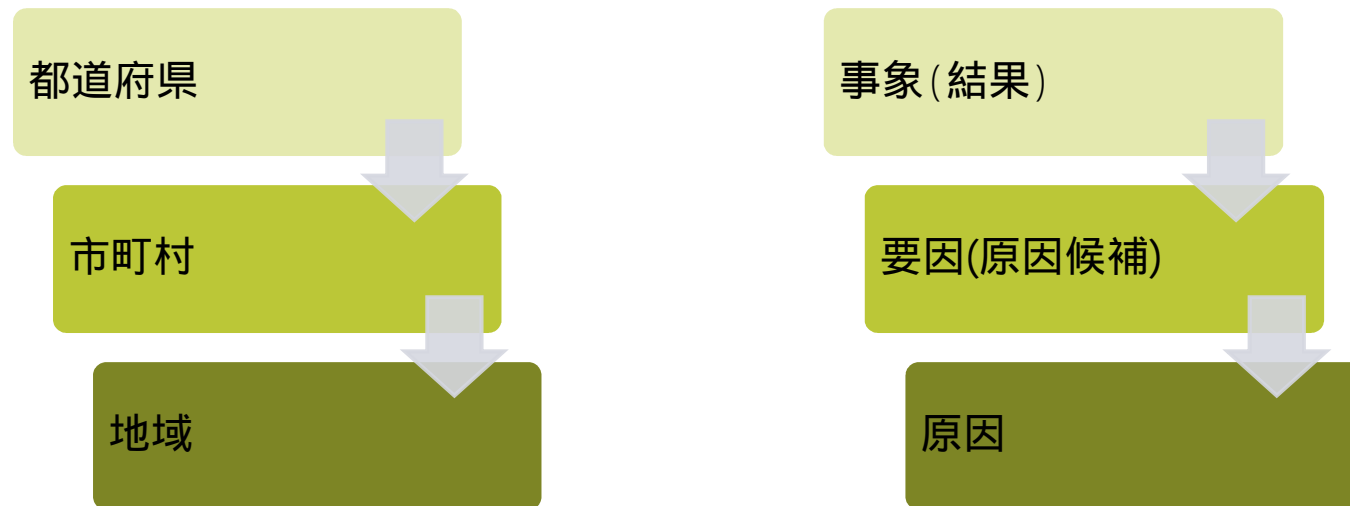
◀ 本基礎研修の力点  
(RESASを中心に。)

出典：総務省統計局「なるほど統計学園高等部」

## 第2章 各マップの機能と分析方法

### はじめに

- ▶ 埼玉県内市町村の事例を用いて、各マップの基本的な分析フローに沿って解説する。
- ▶ 分析にあたっては、マクロの視点から徐々に分析対象を絞り込み、政策のターゲットとなる対象を抽出する。（一部例外あり）



- ▶ 詳細な操作方法はRESASのヘルプ画面からダウンロードできる操作マニュアルを参照のこと。
- ▶ 本章で紹介する図面・グラフ等は注釈がない限り、地域経済分析システムからの転載である。





## 2-1 人口マップ

### 分析フロー

#### ステップ1

分析対象となる地域の年齢層別の人口推移の推計値を把握する。

#### ステップ2

自然増減及び社会増減が人口推移に及ぼす影響を把握する。

#### ステップ3

自然増減の影響が強い場合は、合計特殊出生率、女性人口の将来推移を把握する。  
社会増減の影響が強い場合は、転出入が多い年齢層、転出入の多い地域を把握する。

### 使用する主な機能

- ・人口構成  
人口推移  
人口ピラミッド 等

- ・人口増減  
グラフを表示  
自然増減・社会増減の推移 等

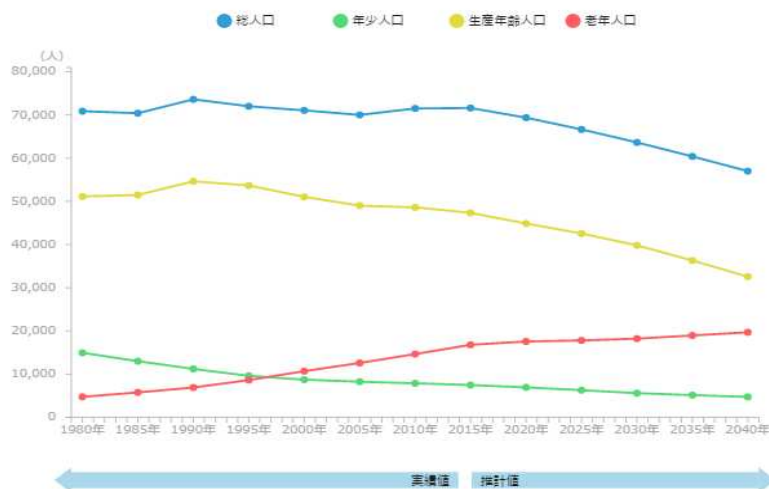
- ・人口の自然増減  
グラフを表示  
自然増減の推移 等
- ・人口の社会増減  
From-to (定住人口)  
人口移動 (グラフ分析) 等

## 2-1 人口マップ (「人口構成」)

### ステップ1 分析対象となる地域の年齢層別の人口推移の推計値を把握する

- ▶ 蕨市の将来人口を確認すると、2010年から2040年にかけての推計人口減少率は約20.2%である。全国的には2010年から2040年にかけて1.28億人から1.07億人へ約16%の減少が見込まれている中で、減少率は全国平均を上回っている。
- ▶ また、年齢3区分別に見ると、生産年齢人口の推計減少率は33.0%、年少人口は40.1%となっており、各種産業における労働者・後継者不足、小中学校の生徒数の減少などが今後の検討課題になると考えられる。

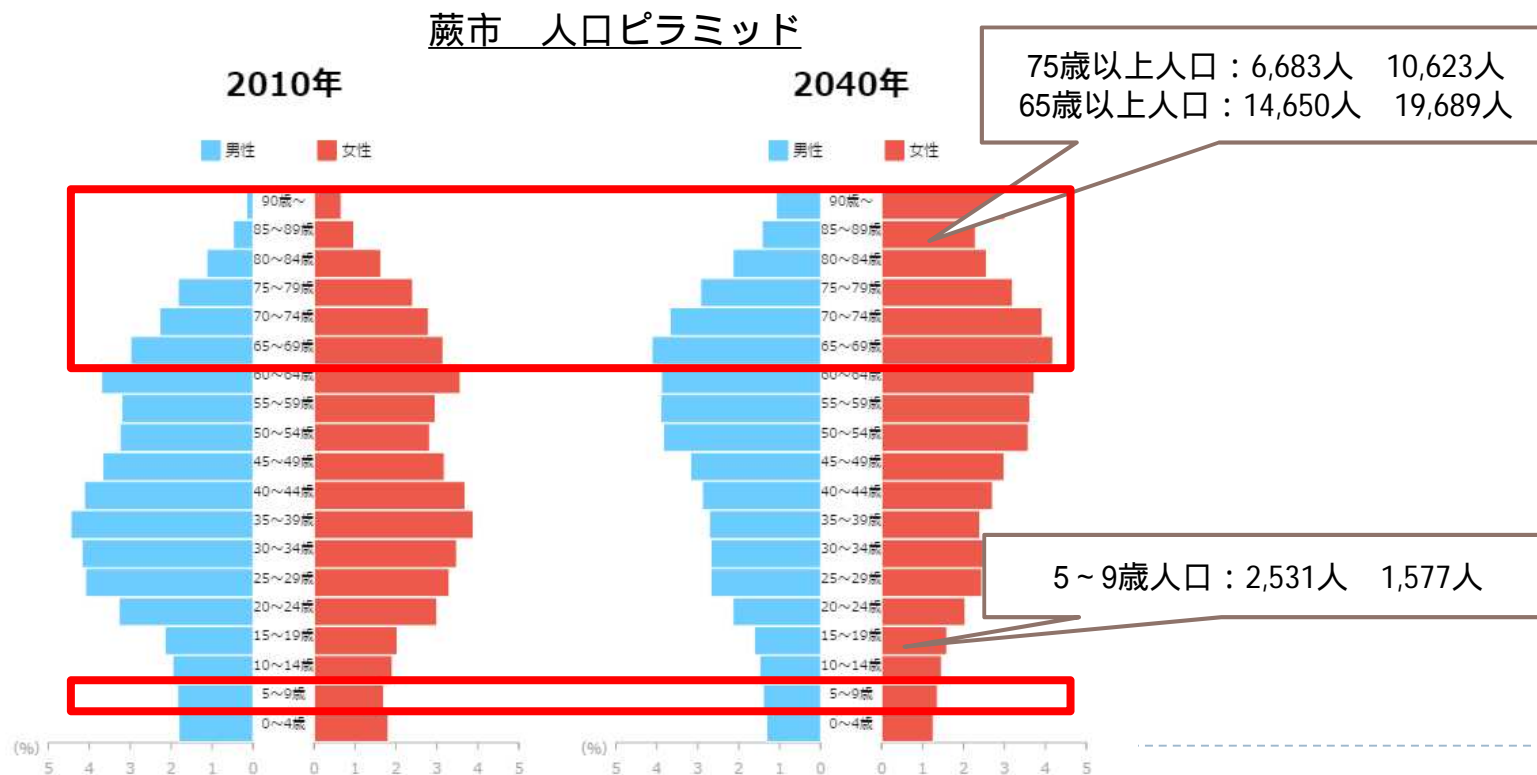
蕨市 人口推移



	2010年	2040年	推計増減率
総人口	71,502人	56,993人	-20.3%
老年人口 (65歳以上)	14,650人	19,689人	34.4%
生産年齢人口 (15歳～64歳)	48,615人	32,577人	-33.0%
年少人口 (0歳～14歳)	7,887人	4,727人	-40.1%

## 2-1 人口マップ (「人口構成」「人口ピラミッド」)

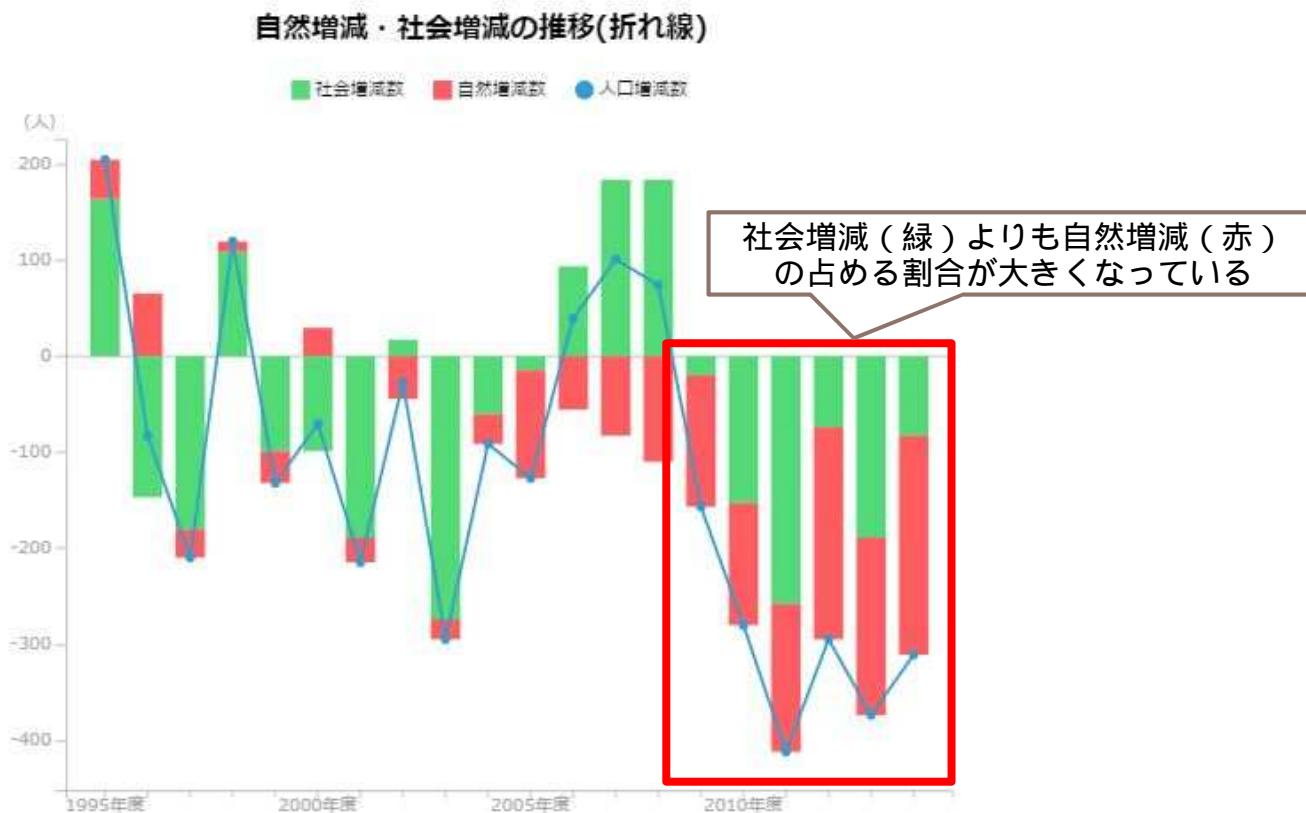
- ▶ 5歳～9歳の年齢層に着目すると、2010年時点の2,531人から2040年時点には1,577人に減少しており、単純に計算すると小学校の児童数が約6割になることになる。
- ▶ また、65歳以上人口は2040年時点に19,689人と増加（増加率34.4%）しており、とりわけ75歳以上人口に着目すると6,683人から10,623人へと増加（増加率60.0%）しており、生産年齢の減少と相まって若者一人あたりの老年人口は確実に増加する。
- ▶ 従い、今後、医療・介護の体制整備に加え、地域でいかに高齢者を支えていくかが課題となる。



## 2-1 人口マップ(「人口増減」)

**ステップ2** 自然増減及び社会増減が人口推移に及ぼす影響を把握する。

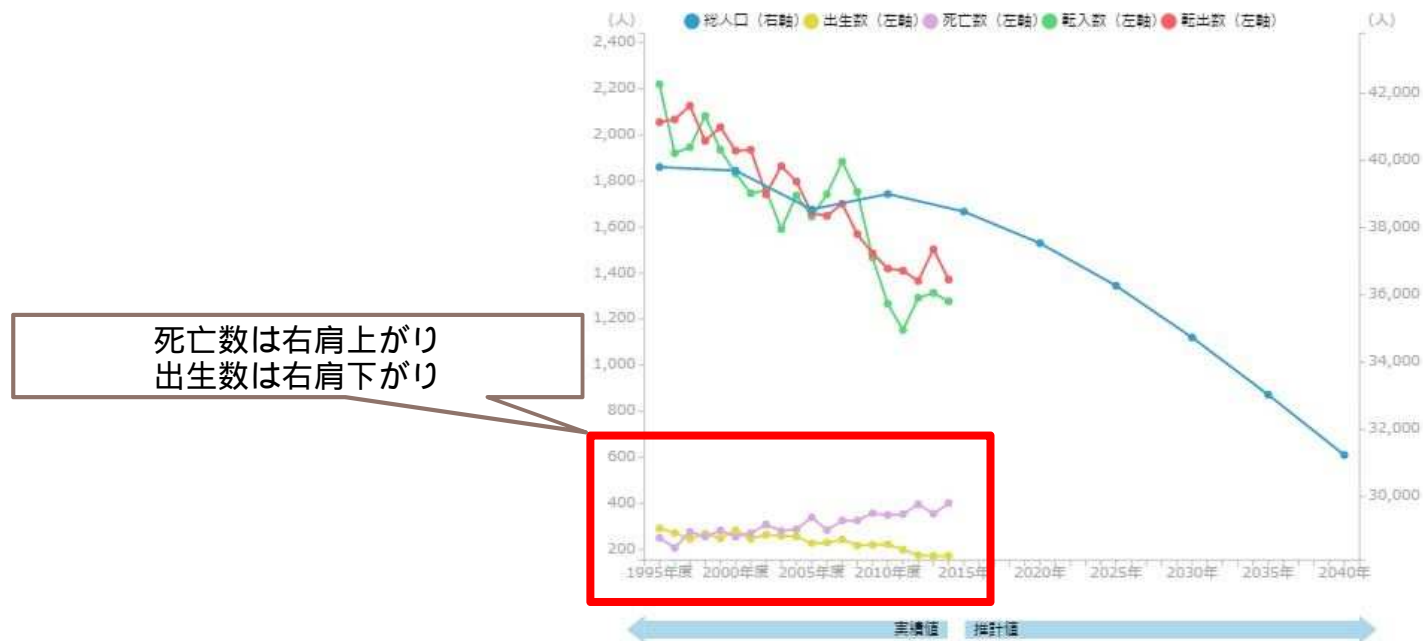
- ▶ 毛呂山町の人口増減を確認すると、2008年度までは社会増減による影響が概ね強かったが、2009年度以降は自然増減による影響が強まっている。



## 2-1 人口マップ (「人口増減」)

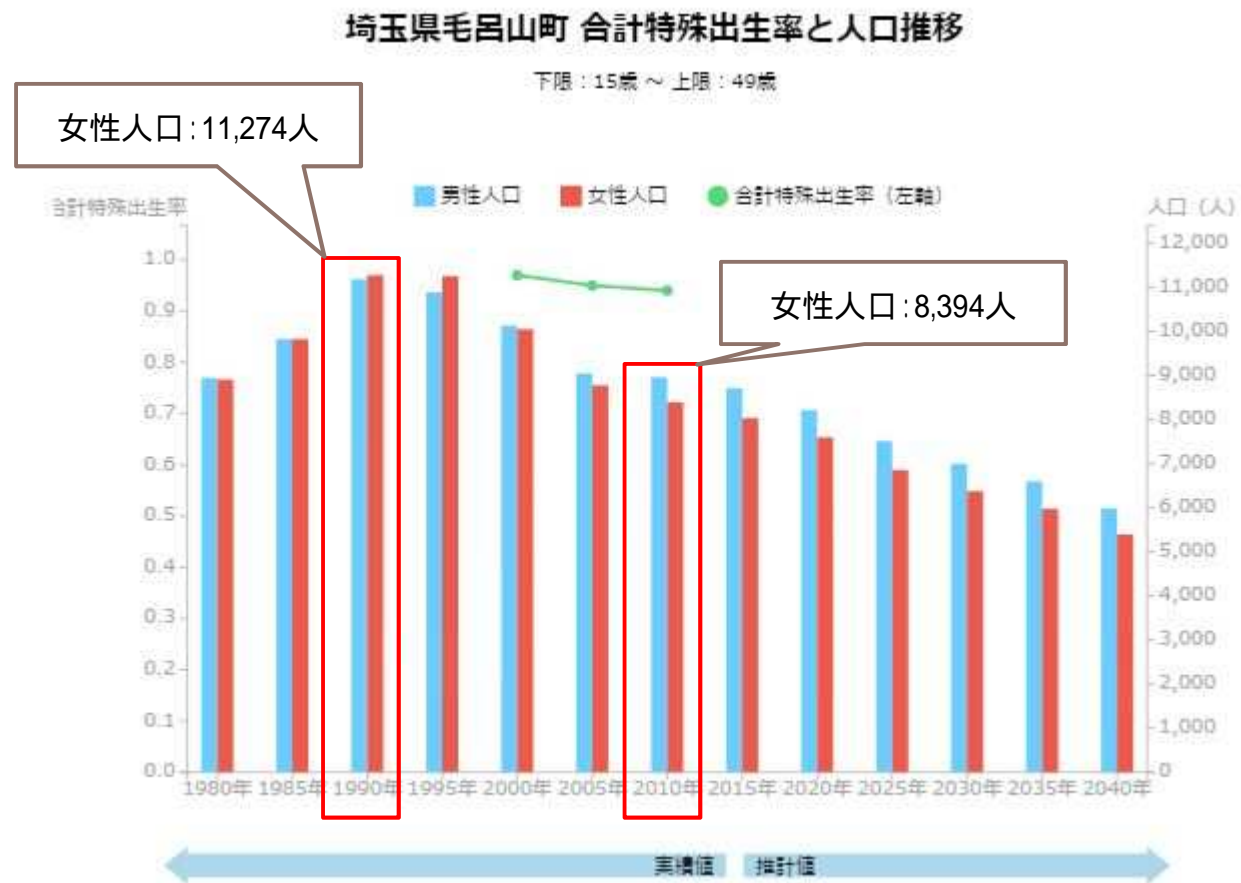
### ステップ3 自然増減による影響を把握する。

- ▶ 毛呂山町の自然増減について確認すると、1995年度の出生と死亡の差分は+41人（出生>死亡）であったが、2012年度は-221人（死亡>出生）に転じている。
- ▶ 出生数は1995年度の291人から概ね一貫して減少傾向にあり、2012年度は175人と約40%減である。一方死亡数は1995年度の250人から概ね増加傾向にあり、2012年度は396人と約60%増である。



## 2-1 人口マップ (「人口の自然増減」 「合計特殊出生率と人口推移」)

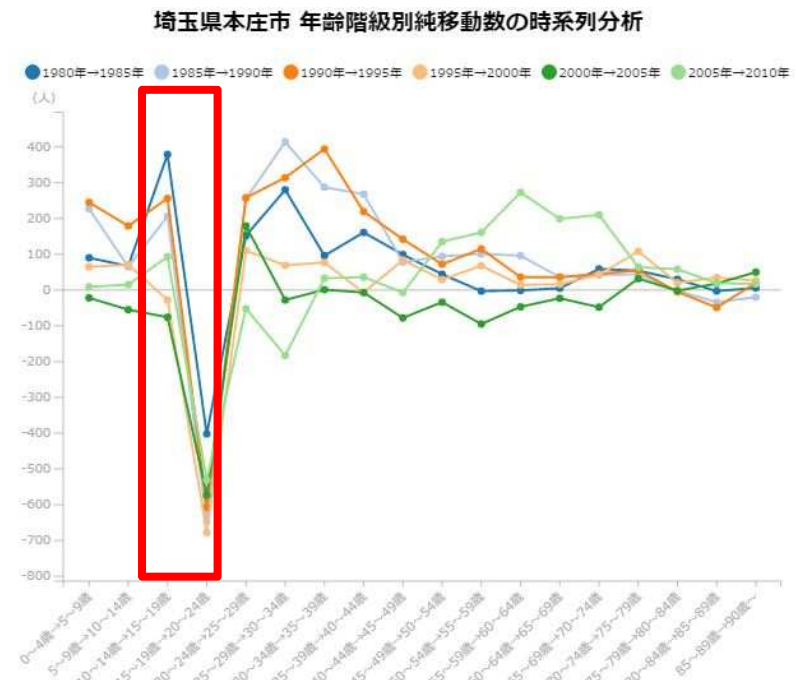
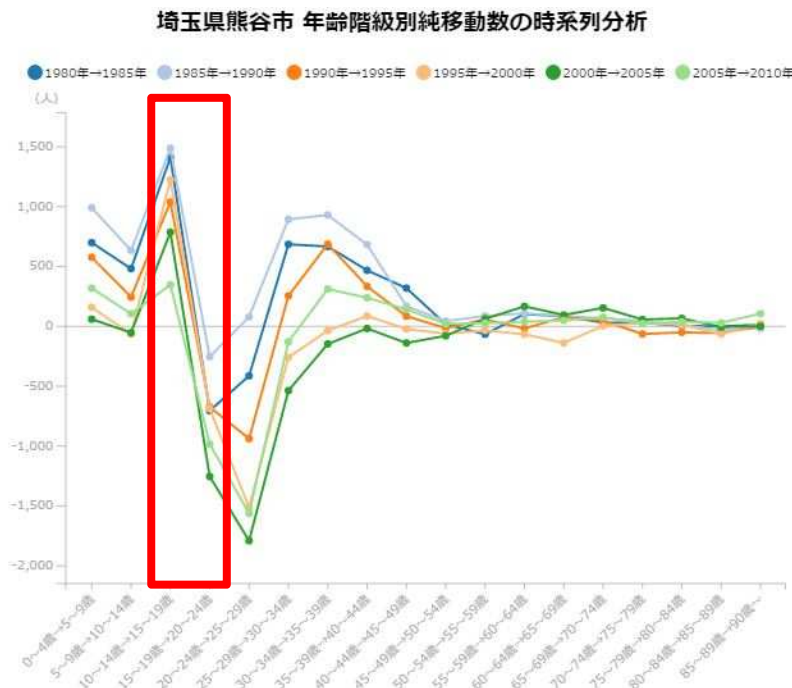
- ▶ 毛呂山町の将来的な出生数を分析するため、合計特殊出生率の根拠となる15 - 49歳の女性人口に着目すると、1990年の11,274人をピークに減少に転じ、2010年は8,394人と約25%減であることから、合計特殊出生率が現在の水準を維持するとしても今後も更なる出生数の減少が予測することができ、少子化対策は喫緊の課題であるといえる。



## 2-1 人口マップ (「人口の社会増減」 「人口移動(グラフ分析)」)

### ステップ3 社会増減による影響を把握する(熊谷市と本庄市の比較)。

- ▶ 北部地域の熊谷市と本庄市は10～14歳が15～19歳になるタイミングの純移動数は純増であるのに対し、15～19歳が20～24歳になるタイミングの純移動数は純減である。



## 2-1 人口マップ (「人口の社会増減」 「From-to (定住人口)」)

- ▶ 熊谷市と本庄市の20代の転出超過先の上位3地域を比較すると、顕著な差が見られる。
- ▶ 熊谷市は県外（静岡県浜松市西区、福岡県芦屋町、茨城県小美玉市）が上位を占めた。
- ▶ 本庄市は県内（深谷市、熊谷市、さいたま市浦和区）が上位を占めた。

この違いを生む要因は何か？

埼玉県熊谷市 From-to分析 (定住人口) 2014年

埼玉県本庄市 From-to分析 (定住人口) 2014年



ヒント：上位5位の共通点は？



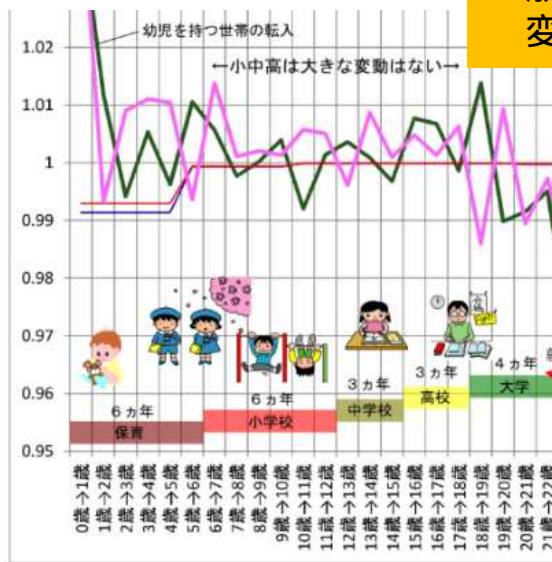
# 2-1 人口マップ

▶ RESASに搭載されている以外のデータ活用例を紹介。

## 埼玉県町(丁)字別人口調査(埼玉県独自)

性別、1歳階級、毎年

丁字名	男	男0歳	男1歳	男2歳
	41,648	341	337	407
大字飯田	508	1	5	9
大字飯田新田	585	1	7	5
大字植田谷本	1,419	7	8	13
大字植田谷本村新田	3	0	0	0
大字内野本郷	2,599	20	21	26
大字指扇	8,397	81	63	85
大字指扇領辻	247	0	0	1
大字指扇領別所	1,389	6	11	7



1歳ごとの  
変化率

1歳ごとの  
推計が可能

RESASでは追いきれない、  
生活圏レベルの将来予測  
が可能(例:教育関連施設、  
介護サービスの需給予測)

## 住民基本台帳に基づく、 地区別、年代別人口推計結果(桶川市)

		1. 駅東側	2. 駅西側	3. 日出谷	4. 坂田	5. 加納	6
未就学児	H27	634	766	1,022	1,064	265	
	H38	531	609	792	868	245	
	増減率	-16.2%	-20.5%	-22.5%	-18.5%	-7.4%	
小学生	H27	542	816	950	933	376	
	H38	464	521	851	951	263	
	増減率	-14.3%	-36.1%	-10.5%	1.9%	-30.0%	
中学生	H27	317	441	480	443	198	
	H38	264	273	488	513	126	
	増減率	-16.6%	-38.1%	1.7%	15.8%	-36.2%	
高校生	H27	306	509	530	415	208	
	H38	246	333	542	488	149	
	増減率	-19.7%	-34.5%	2.2%	17.7%	-28.2%	
大学生等 (19-22歳)	H27	481	643	637	588	254	
	H38	366	596	620	646	225	
	増減率	-24.0%	-7.2%	-2.6%	9.8%	-11.6%	
20歳代 (上記と重複)	H27	1,250	1,628	1,549	1,535	622	
	H38	1,071	1,521	1,605	1,532	485	
	増減率	-14.3%	-6.6%	3.6%	-0.2%	-22.0%	
30歳代	H27	1,587	1,898	2,214	2,184	777	
	H38	1,200	1,307	1,537	1,819	412	
	増減率	-24.4%	-31.1%	-30.6%	-16.7%	-47.0%	
40歳代	H27	2,049	2,785	2,558	2,396	1,019	
	H38	1,439	1,711	2,309	2,465	685	
	増減率	-29.8%	-38.6%	-9.7%	2.9%	-32.8%	
50歳代	H27	1,625	2,225	1,821	1,656	866	
	H38	1,962	2,652	2,627	2,522	895	
	増減率	20.7%	19.2%	44.3%	52.3%	3.4%	
60歳代前半	H27	833	1,102	1,267	940	584	
	H38	854	1,124	932	854	381	
	増減率	2.6%	2.0%	-26.4%	-9.2%	-34.8%	
前期高齢者	H27	1,716	2,373	2,671	2,129	1,344	
	H38	1,394	1,899	1,828	1,589	861	
	増減率	-18.7%	-20.0%	-31.6%	-25.3%	-36.0%	
後期高齢者	H27	1,646	1,751	1,674	1,469	855	
	H38	2,078	2,681	3,030	2,472	1,326	
	増減率	26.3%	53.1%	81.0%	68.3%	55.1%	
総数	H27	12,618	16,438	16,897	15,315	7,176	
	H38	11,594	14,781	16,688	16,240	5,887	
	増減率	-8.1%	-10.1%	-1.2%	6.0%	-18.0%	
高齢化率	H27	26.6%	25.1%	25.7%	23.5%	30.6%	
	H38	30.0%	31.0%	29.1%	25.0%	37.1%	

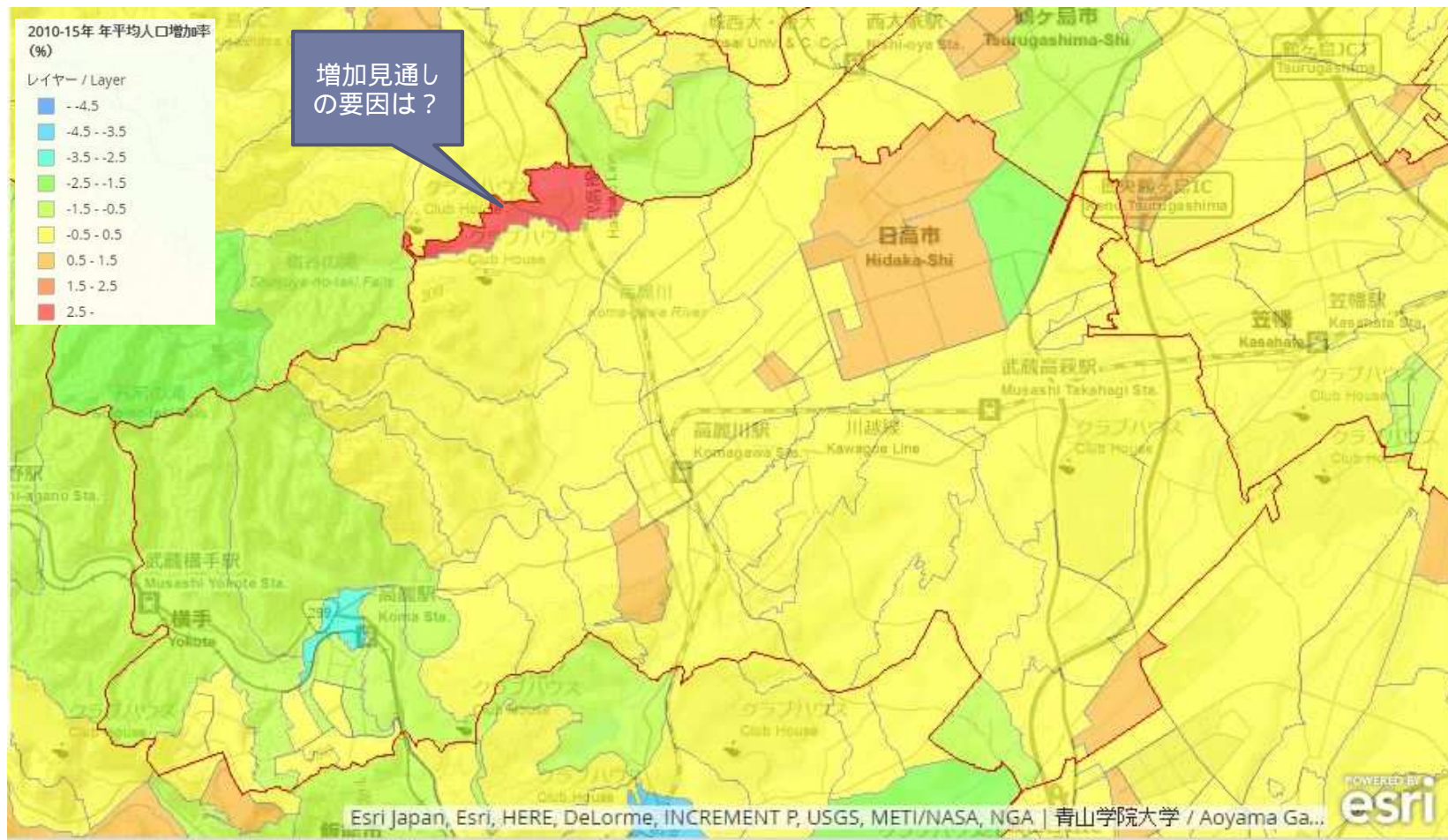
2割以上の増加  
1割以上の増加  
1割以上の減少  
2割以上の減少

## 2-1 人口マップ

- ▶ RESASに搭載されている以外のデータ活用例を紹介。

### 全国小地域別将来人口推計システム(青山学院大学)

<http://agu-econ.maps.arcgis.com/apps/webappviewer/index.html?id=00804e1e1beb45e1864c5f24a65fd40d>



## 2-2 観光マップ

### 分析フロー

#### ステップ1

都道府県・市町村の滞在人口の時間帯別・月別推移から、滞在パターンの特徴を把握する。

#### ステップ2

都道府県・市町村への訪問者の出発地の傾向から、PRを重点化するエリアや不足しているエリアを検討する。

#### ステップ3

流動人口が多いエリアにおける時間帯別・月別の推移から、人の動きを予測する。

#### ステップ4

観光施設の注目度から、当該施設の観光需要を予測する。

### 使用する主な機能

- ・ 滞在人口率  
滞在人口月別推移  
滞在人口時間帯別推移 等

- ・ From-to分析（滞在人口）  
出発地点別滞在人口 等

- ・ メッシュ分析（流動人口）  
流動人口月別推移  
流動人口時間帯別推移 等

- ・ 目的地分析  
目的地ランキング  
検索回数推移 等

## 2-2 観光マップ (「滞在人口率」 「グラフを表示」)

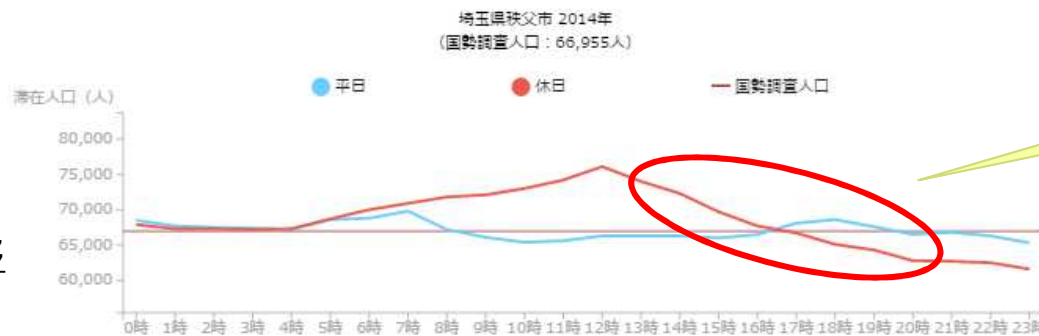
**ステップ1** 自地域の滞在人口の月別・時間帯別・推移から、滞在パターンの特性を把握する。

- ▶ 秩父市の月別の滞在人口( )の推移を見ると、5月(GW)、8月(お盆)と並んで11月(紅葉まつり等)のシーズンに滞在人口のピークが来ることがわかる。
- ▶ 一方、時間帯別推移を見ると、12時をピークに夕方にかけて減少しており、夜間も市内で過ごせる仕掛けや施設の充実等、滞在人口の維持、増加が課題として挙げられる。

秩父市  
滞在人口  
月別推移



秩父市  
滞在人口  
時間帯別推移



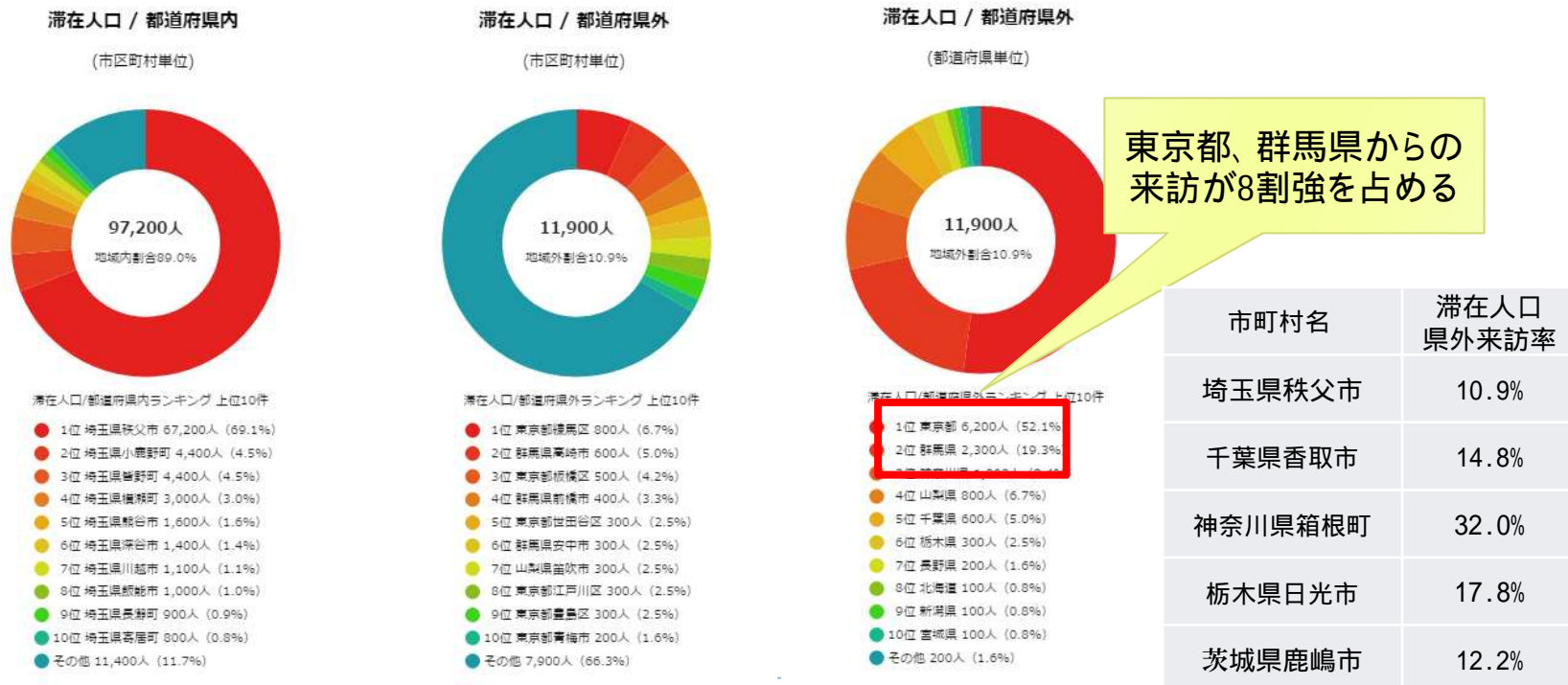
滞在人口：滞在目的を問わず、自地域に2時間以上滞在した人口(住民含む。)

## 2-2 観光マップ (「From-to分析(滞在人口)」 「グラフを表示」)

**ステップ2** 自地域への訪問者の出発地の傾向から、観光PRを重点化するエリアや不足しているエリアを検討する。

- 秩父市に訪れる滞在人口の出発地を分析すると、県内が約9割を占め、県外も東京都、群馬県が約8割を占め、日帰りが多くを占めると予測される。
- 箱根町(箱根神社)や香取市(香取神宮)等、他市町村と比較しても県外からの滞在人口訪問率は低く、県外の観光PRに一層取り組む必要がある。

### 埼玉県秩父市 出発地別滞在人口(2014年 休日)

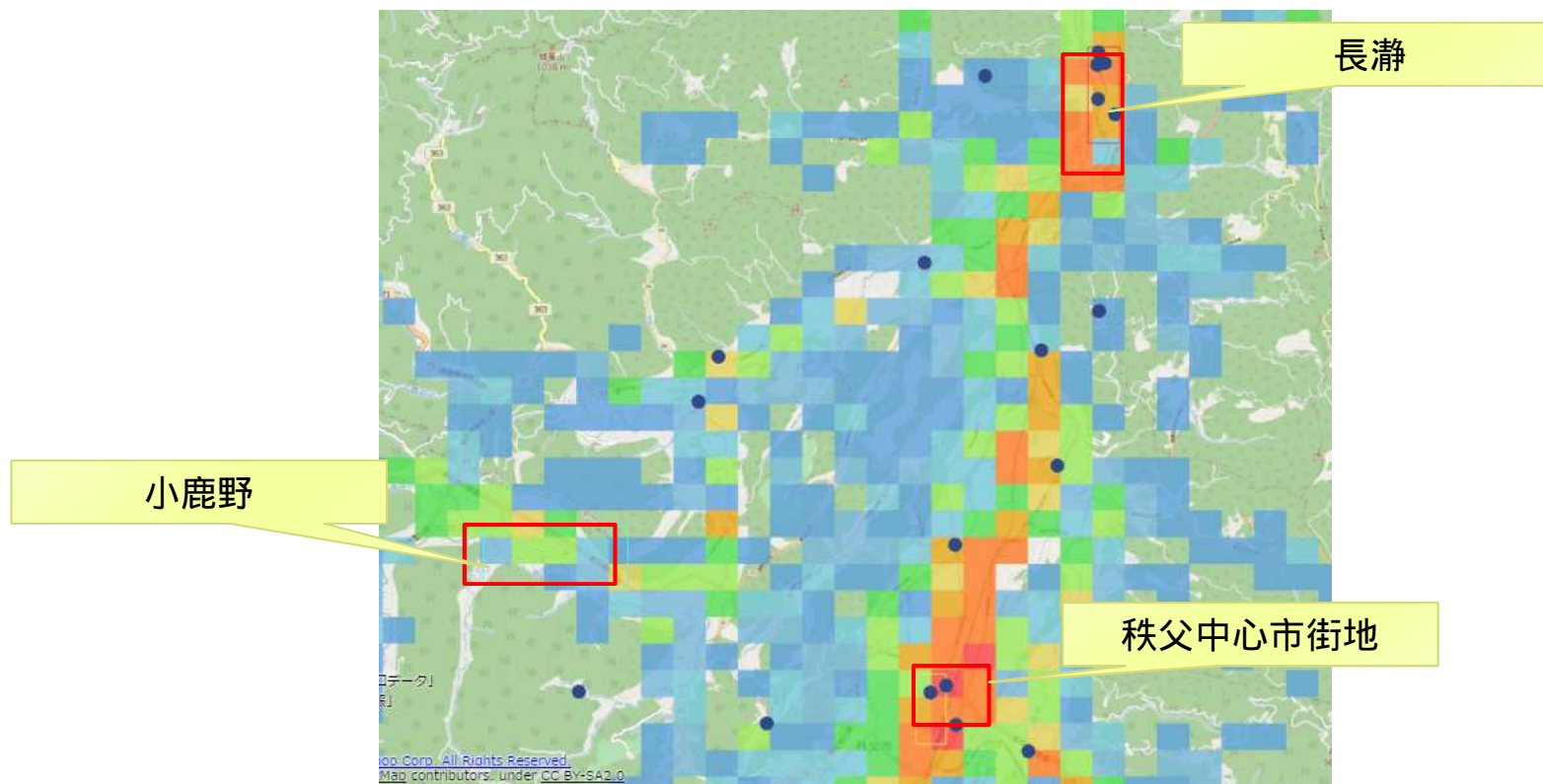


## 2-2 観光マップ (メッシュ分析 (流動人口))

**ステップ3** 流動人口が多いエリアにおける時間帯別・月別の推移から、人の動きを予測する。

- 秩父中心市街地周辺における休日の流動人口を見ると、当該地域以外では、長瀨、小鹿野に流動人口が多いことがわかる。

秩父市 500mメッシュ 流動人口 (2014年8月休日)



# 実際に操作してみよう！

- ▶ STEP3（メッシュ分析）を行う場合、高麗川駅を対象地域として選択する。

STEP3を操作する際の手順(1)



# 実際に操作してみよう！

- ▶ 観光マップを使ってまちの現状を把握してみよう。

STEP3を操作する際の手順(2)

The image shows two screenshots of the '観光マップ' (Tourist Map) interface. The left screenshot shows a wide view of the map with a red circle around the map area and a callout box that says '縮尺は変更可能' (Zoom is adjustable). A red arrow points from this callout to the right screenshot, which shows a zoomed-in view of a specific area. A callout box in the right screenshot says '「任意の地域を選択する」をクリック' (Click 'Select any area'). The interface includes a sidebar with various settings and a search bar.

縮尺は変更可能

マウスで地図を動かし、調べたい地域を大まかに見つける

「任意の地域を選択する」をクリック



# 実際に操作してみよう！

- ▶ 観光マップを使ってまちの現状を把握してみよう。

## STEP3を操作する際の手順(3)



# 実際に操作してみよう！

- ▶ 観光マップを使ってまちの現状を把握してみよう。

## STEP3を操作する際の手順(4)

The screenshot shows a heatmap of a city area with a color scale from blue (low density) to red (high density). A red box highlights a specific area on the map. On the right side, there is a control panel with several options. Two buttons, 'メッシュを読み込む' (Load Mesh) and 'グラフを表示' (Show Graph), are highlighted with red boxes. Three callout boxes provide instructions: one explains that warmer colors indicate high population density, another explains that clicking 'Load Mesh' will change the map to the highlighted area, and a third explains that clicking 'Show Graph' will display a monthly and time-specific population flow graph for the selected area.

暖色系の色が濃いほど、人が集中していることを意味する

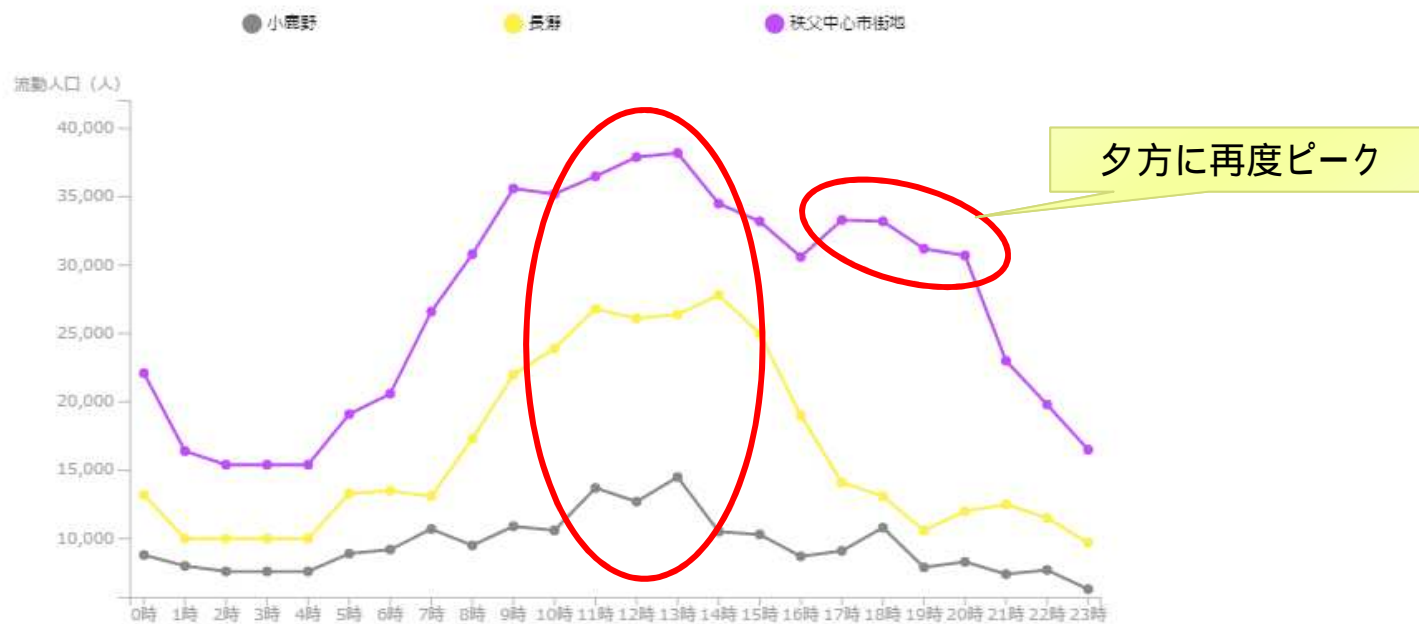
「メッシュを読み込む」をクリックすると、左のような図に切り替わる

「グラフを表示」をクリックすると、手順(3)で選択した地域の月別・時間大別の流動人口グラフが表れる

## 2-2 観光マップ (メッシュ分析 (流動人口))

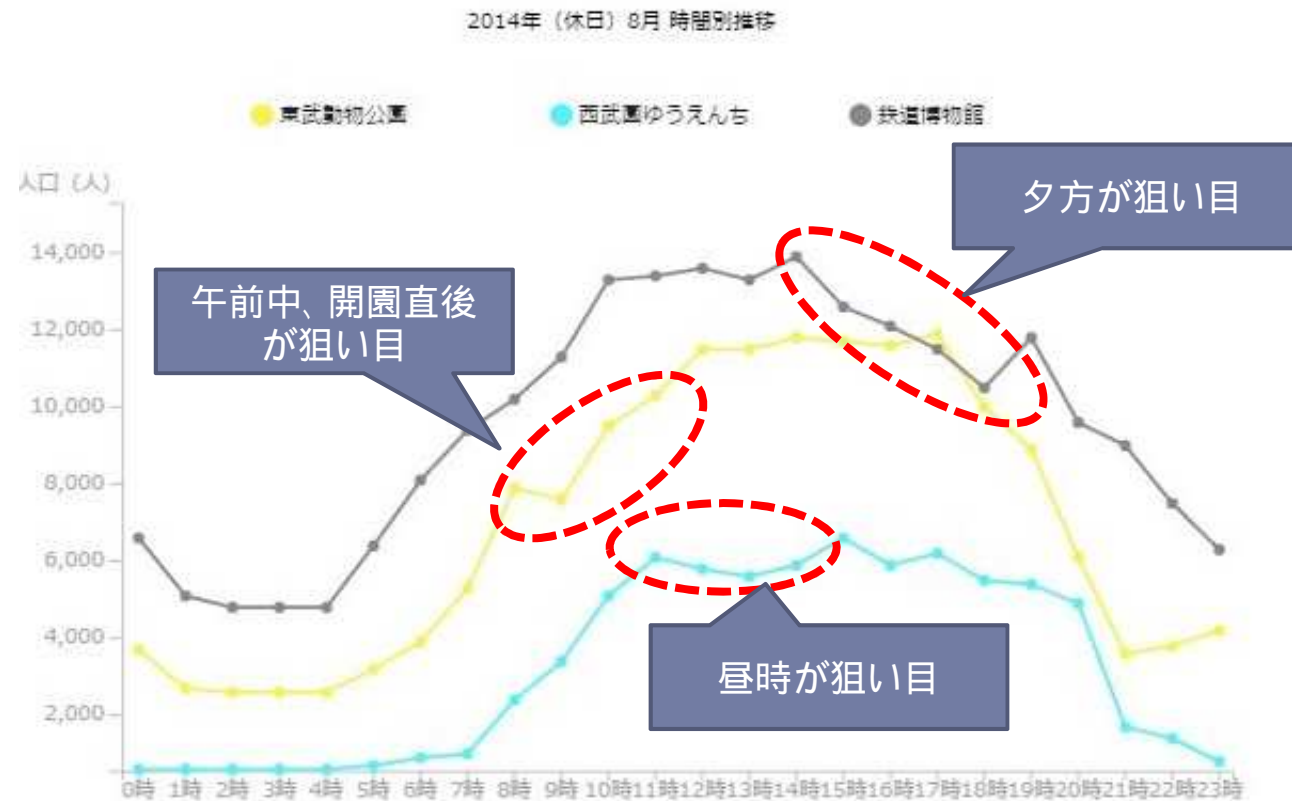
- ▶ 秩父中心市街地、長瀬、小鹿野における流動人口の推移を見ると、昼にピークが来るという点においては共通する一方で、秩父中心市街地では、17時以降再度ピークが訪れており、観光客のニーズを満たす飲食店や宿泊施設が立地していると予測できる。
- ▶ 日中、長瀬や小鹿野を訪れた観光客を秩父に誘導することにより、滞在時間の延長が期待される。

秩父中心市街地周辺 時間別流動人口推移 (2014年 休日)



## 2-2 観光マップ（こんな使い方も出来る！？）

- ▶ 観光マップを使ってテーマパークの混雑具合を把握しよう



【出典】  
株式会社Agoop「流動人口データ」

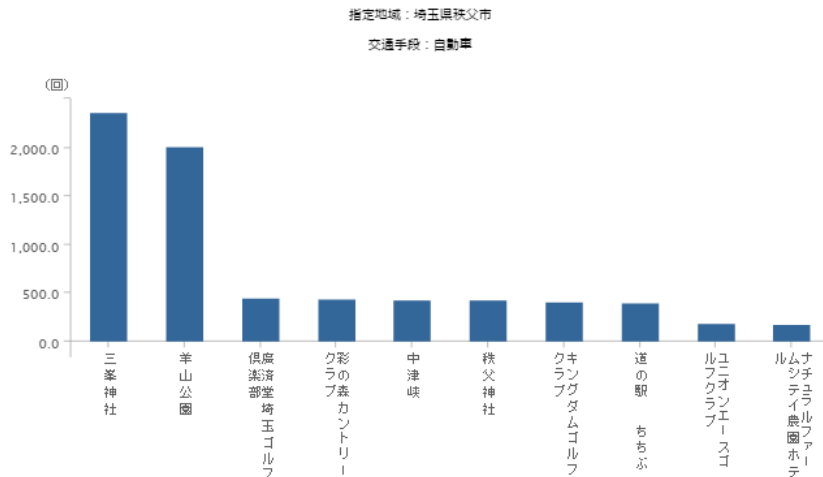
Copyright (C) 2016 Agoop Corp. All Rights Reserved.

## 2-2 観光マップ (「目的地分析」 「目的地検索ランキングを表示」)

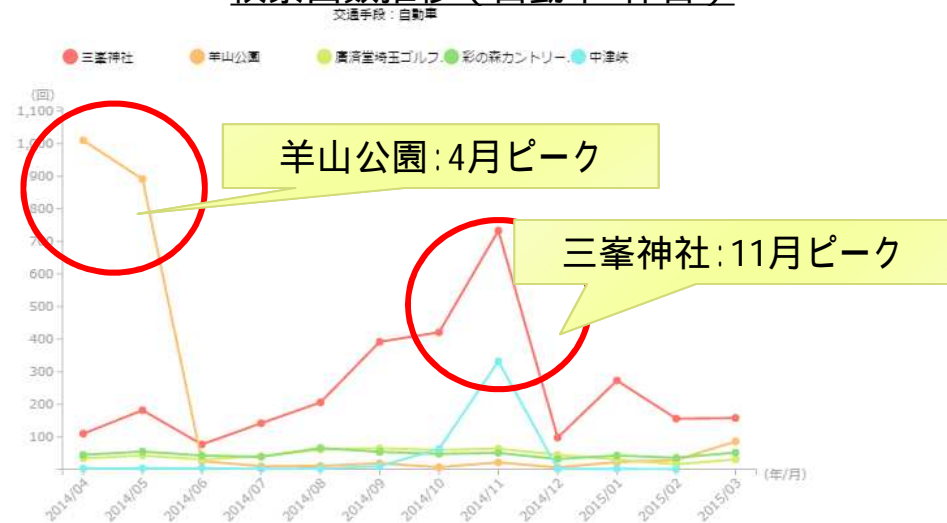
### ステップ4 観光施設の注目度から、当該施設の観光需要を予測する。

- 秩父市の観光施設の検索回数を見ると、三峯神社、羊山公園、ゴルフ場、中津峡が上位に挙げられ、羊山公園は芝桜の見頃となる4月は注目度が高いものの、それ以外の期間は低く、年間通じての集客や他の観光施設との連携は効果が薄いと考えられる。
- 一方、三峯神社は11月以外にも比較的年間通じて注目されており、秩父観光の核としての役割が期待される。

秩父市 観光施設  
検索回数ランキング(自動車 休日)



秩父市 観光施設  
検索回数推移(自動車 休日)

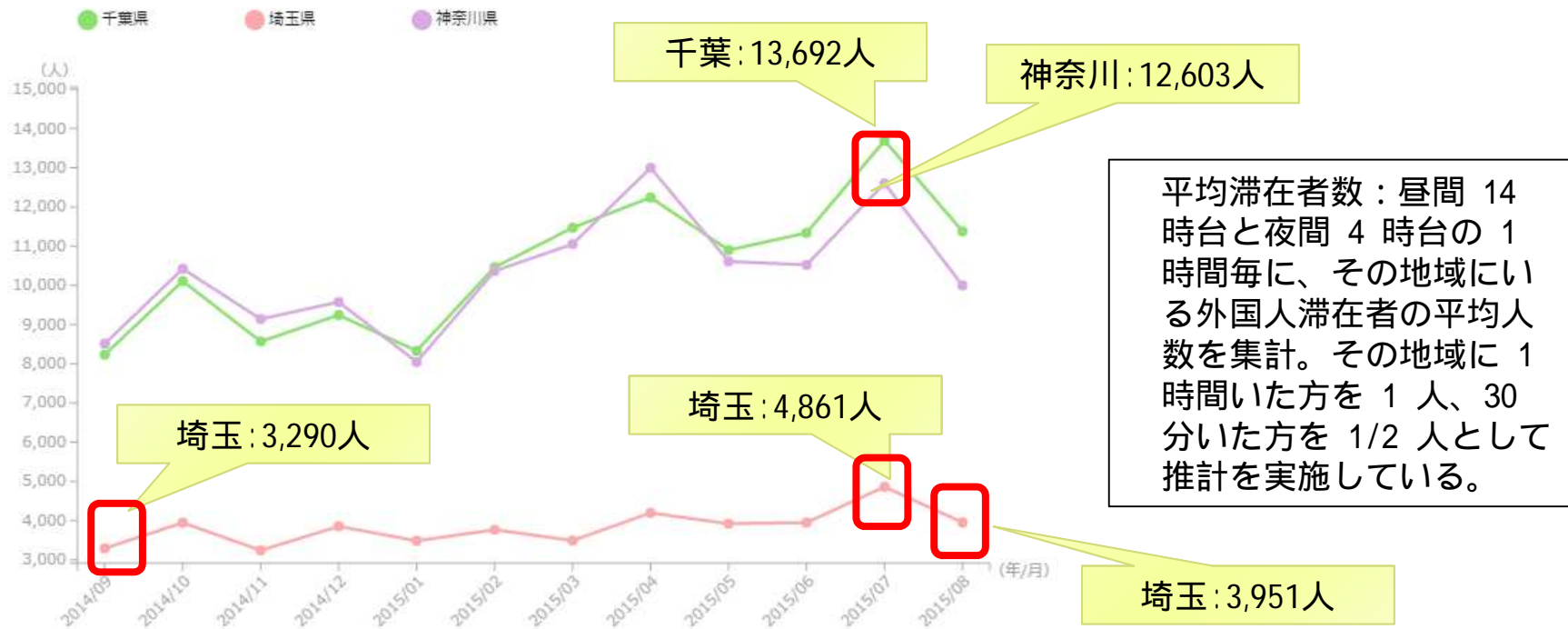


## 2-2 観光マップ (「外国人滞在分析」「指定した国籍で分析する」「推移を見る」)

**その他活用方法** 外国人の訪問及び消費傾向から、インバウンド需要の対応方策を検討する。

- ▶ 埼玉県内における昼間（14時）の外国人の平均滞在者数について、年間では増加しているものの、ピーク時である2015年7月の平均滞在者数を千葉県・神奈川県と比較すると、約37%（埼玉県を1とした場合、約2.7倍）に留まっている。

都道府県別 昼間（14時）平均滞在者数の推移（2014/9～2015/8）



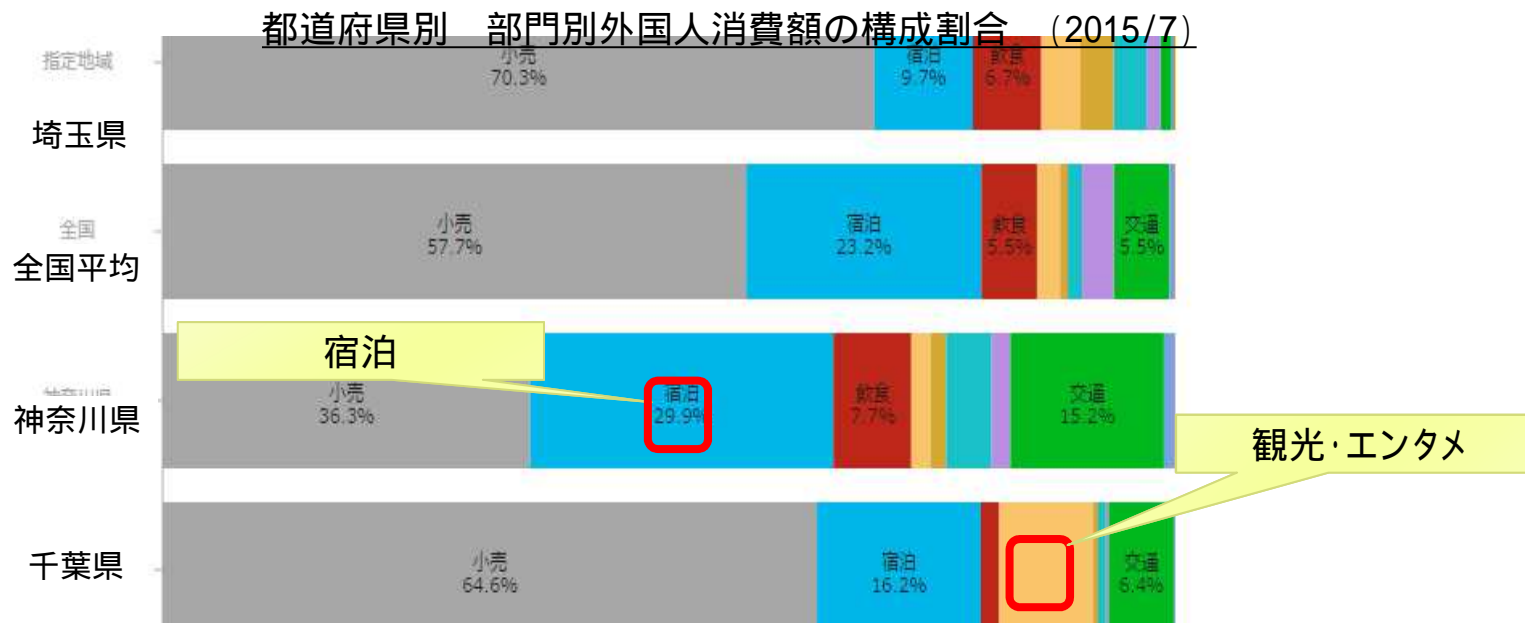
## 2-2 観光マップ (「外国人消費花火図」 「横棒グラフで割合を見る」)

- ▶ 次に、2015年7月時点の外国人の消費額( )について、埼玉県と千葉県と神奈川県を比較すると、総額では前述の訪問比(約2.7倍)以上の差があることがわかる。
- ▶ また、他県では「宿泊」や「観光・エンタメ」部門において、消費の構成割合が高いことがわかり、埼玉県にあって「小売」以外の収入源の確立が求められる。

都道府県別 外国人消費額(総額) (2015/7)

	消費額(総額)	対埼玉県比 (埼玉県を1とした場合)
埼玉県	765,034,576円	-
神奈川県	2,481,991,138円	3.2
千葉県	8,347,623,741円	10.9

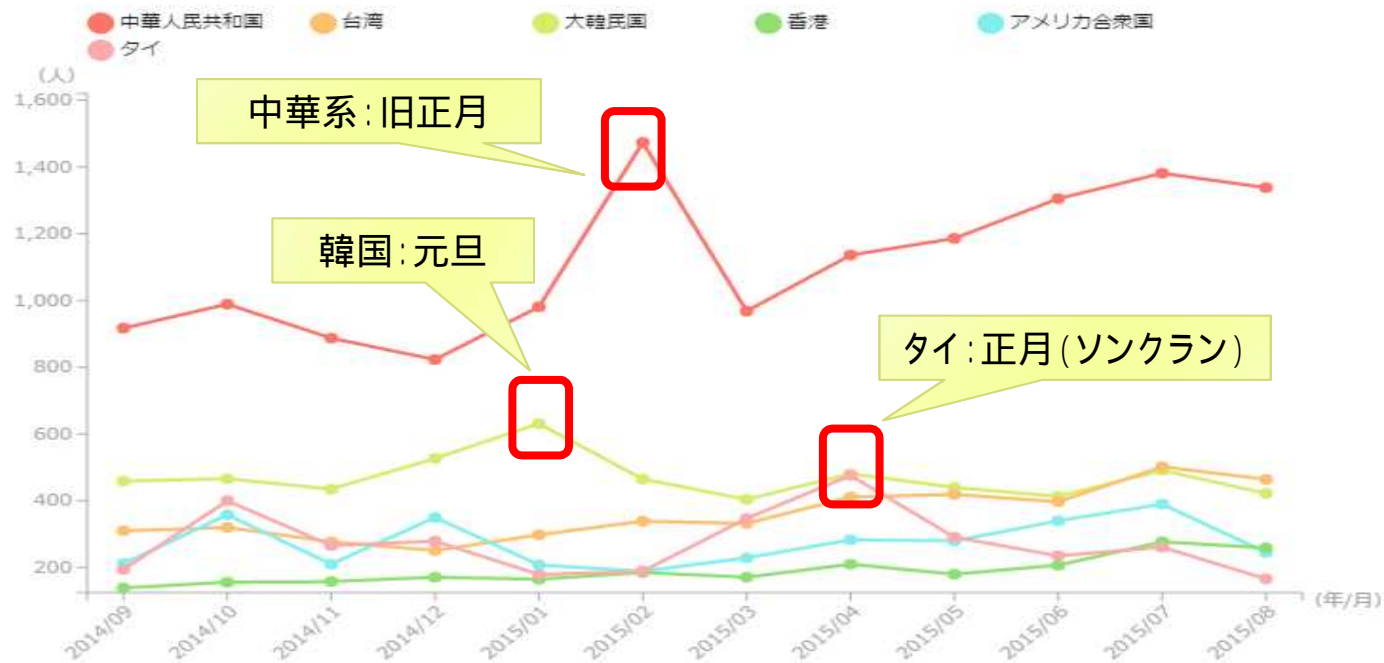
表示される消費額はクレジットカード決済による取引のみ。現金、その他決済による取引額は含まれない。



## 2-2 観光マップ (「外国人滞在分析」「指定した都道府県で分析する」「推移を見る」)

- ▶ 埼玉県の外国人滞在者数の推移を見ると、国籍によって訪問のピーク・オフピークが異なる。インバウンド需要への対応に向けては、こういった変化を捉えた上で、KPIを設定し、観光商品・サービスを開発していく必要がある。

埼玉県 国籍別平均滞在者数の推移 (2014/9 ~ 2015/8)





## 2-3 地域経済循環マップ

### 地域経済循環とは

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。このいずれかの過程で地域外にお金が出た場合、地域経済が縮小する可能性があるため、上記の地域経済の循環を把握し、どこに課題があるのかを分析する必要がある。



出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成資料より画像を転載

## 2-3 地域経済循環マップ

### 分析フロー

#### ステップ1

地域経済の全体像と、生産・分配・支出の各段階におけるお金の流出・流入の状況を把握する。

#### ステップ2

各産業の地域経済への貢献度を量、質、他産業との関係性等の観点から評価する。

#### ステップ3

各産業の移輸出入額から、他地域産業への依存度を把握する。

### 使用する主な機能

- ・ 地域経済循環図  
各段階の詳細グラフ 等

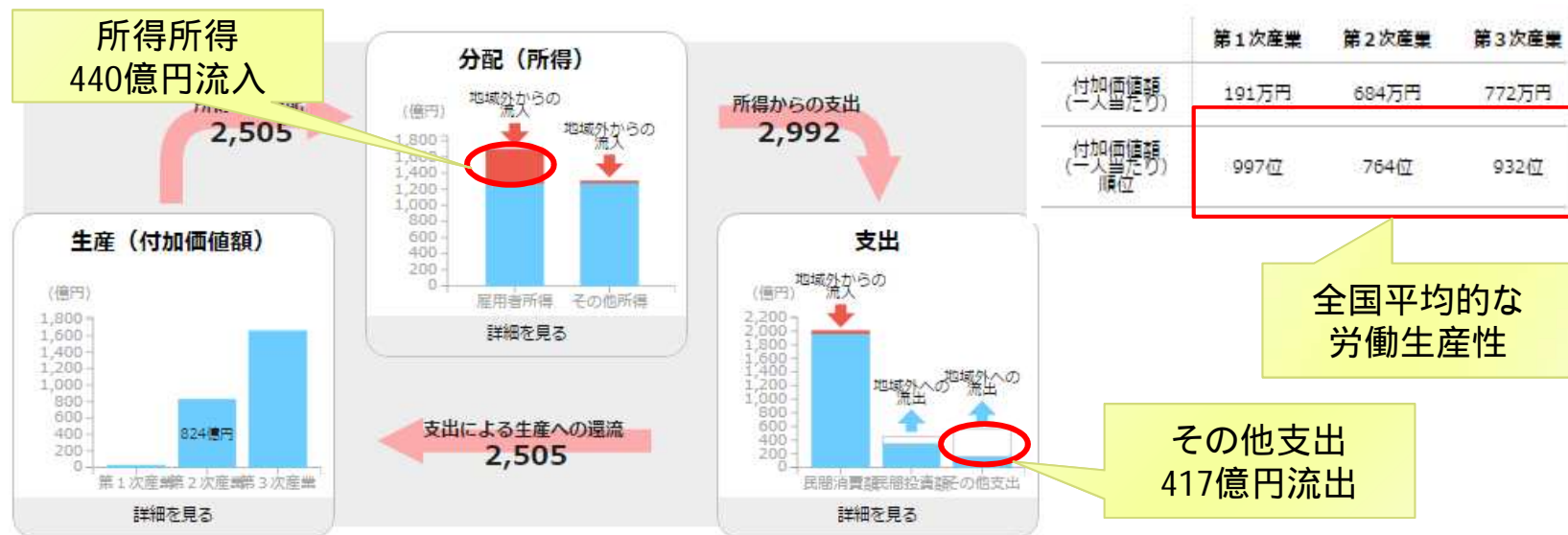
- ・ 生産分析  
地域内産業の構成  
影響力・感応度分析 等

- ・ 生産分析  
産業別移輸出入額 等

## 2-3 地域経済循環マップ (「地域経済循環図」)

**ステップ1** 地域経済の全体像と、生産・分配・支出の各段階におけるお金の流出・流入の状況を把握する。

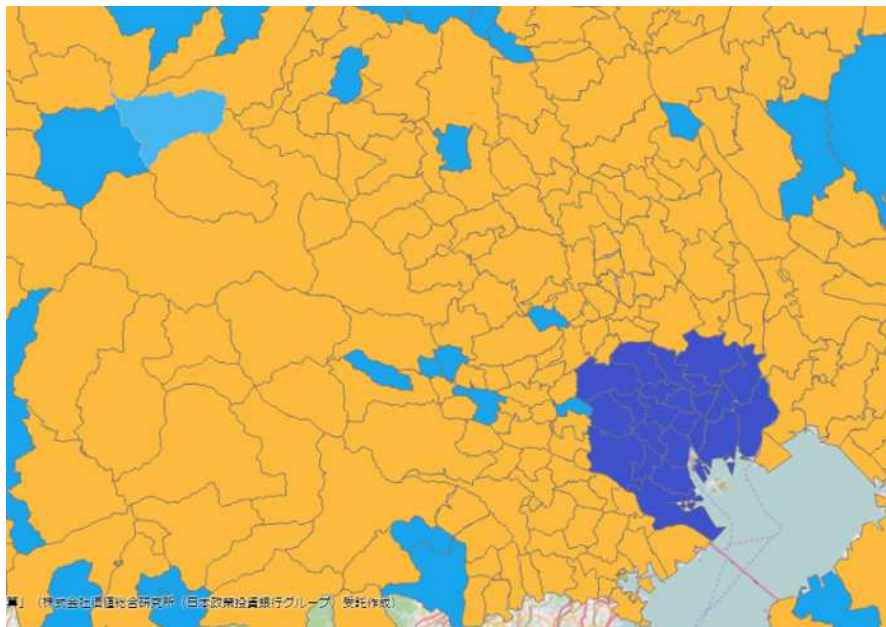
- ▶ 行田市の地域経済循環図を見ると、生産面では第2次及び3次産業の付加価値額が最も多く、一人あたりの付加価値額は全国平均的な水準と言える。
- ▶ 分配面では、「雇用者所得」の地域外からの流入が多く、行田市の住民は市外に通勤して給料を持ち帰って来ていることがわかる。
- ▶ 支出面では、「民間消費額」の地域外からの流入があることから、市外から消費・観光に訪れていることがわかる。また、「その他支出」が域外に流出していることから、一部の財・サービスを移輸入に依存している可能性がある。



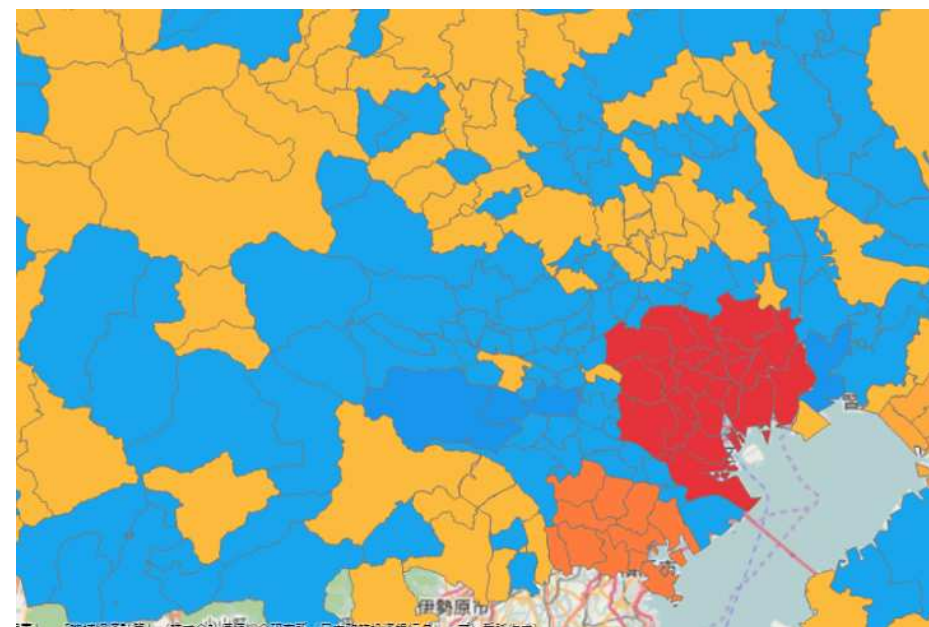
## 2-3 地域経済循環マップ (「分配分析」、「支出分析」)

- ▶ 「分配」及び「支出」におけるお金の収支を埼玉県内の市町村別に見て、お金の流れを広域で把握する。
- ▶ 「雇用者所得」においては、美里町 (-404億円)、滑川町 (-26億円)を除き、収支はプラスとなっている。これは、埼玉県の住民が東京に通勤することにより、雇用者所得が東京都から流入しているためであり、東京都と埼玉県の一部市町村は、経済的に一体であることを示している。
- ▶ 「民間消費額」においては、さいたま市 (419億円)、川越市 (1,300億円)、熊谷市 (782億円)、秩父市 (648億円)等、域外から消費を呼び込んでいる地域が見られる。

埼玉県 市町村別 雇用者所得 地域内収支 (2010年)



埼玉県 市町村別 民間消費額 地域内収支 (2010年)



暖色系に塗られている場合は収支がプラスでお金が域外から流入している状態を表す。

寒色系に塗られている場合は収支がマイナスでお金が域外に流出している状態を表す。

## 2-3 地域経済循環マップ (「生産分析」 「地域内産業の構成を見る」)

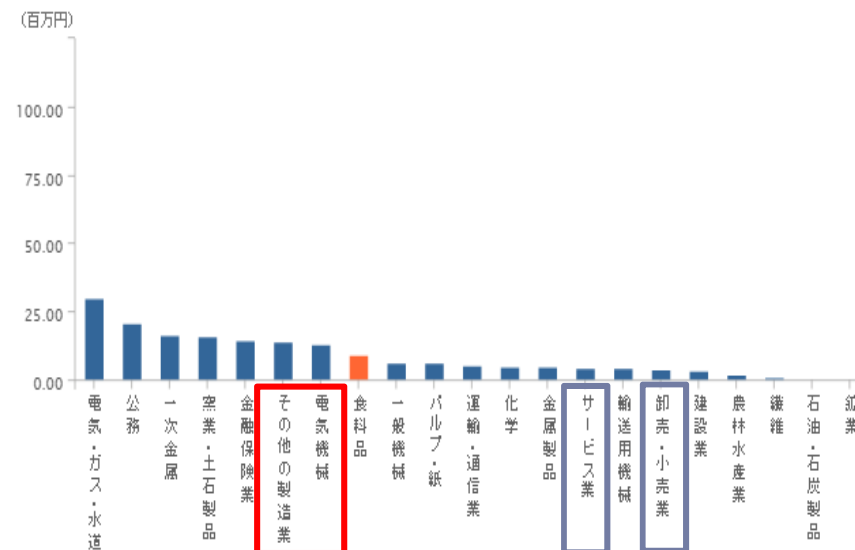
**ステップ2** 各産業の地域経済への貢献度を量、質、他産業との関係性等の観点から評価する。

- ▶ 行田市の産業別の付加価値額を量（総額）と質（一人あたり）の両面から分析すると、「その他製造業」、「電気機械」は両方とも上位に位置している。
- ▶ 他方、「サービス業」、「卸売・小売業」は総額が大きいものの、産業特性上、一人あたりの値は低くなっている。

行田市 産業別  
付加価値額 総額 (2010年)

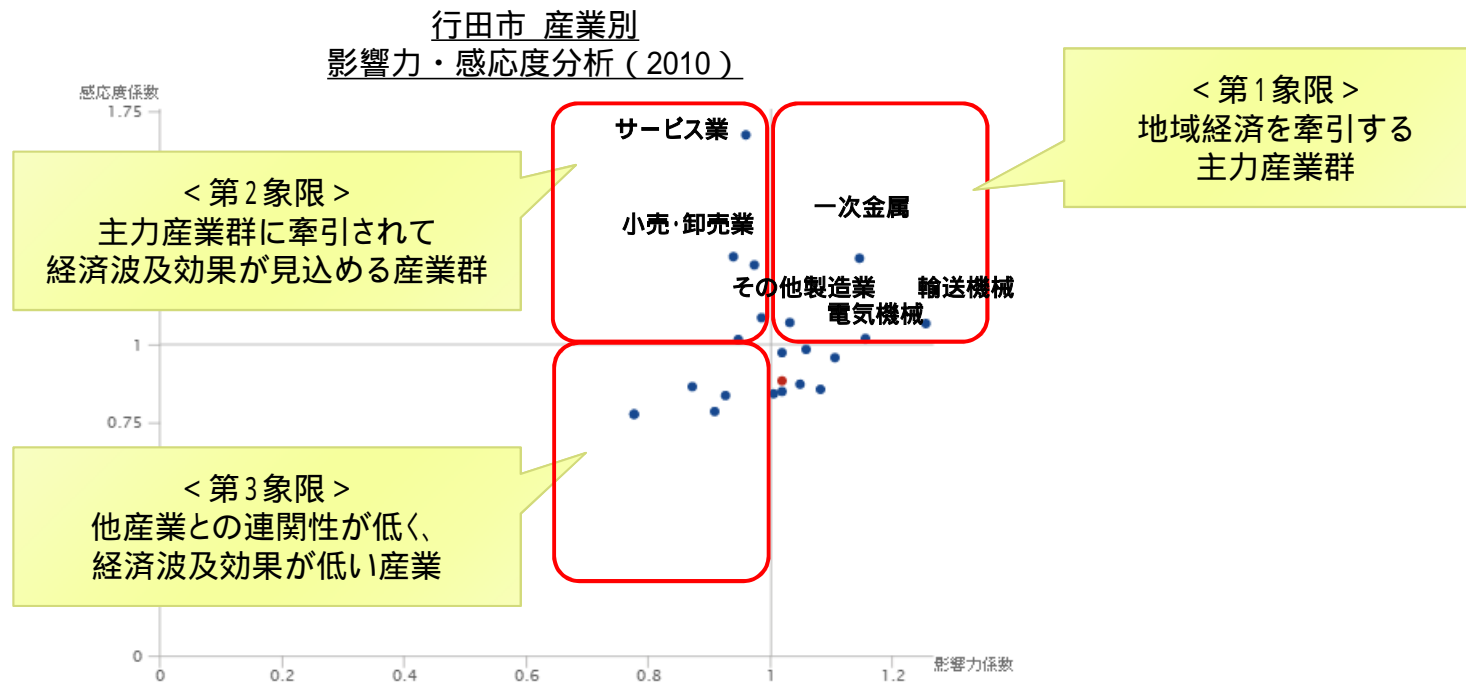


行田市 産業別  
一人あたり付加価値額 (2010年)



## 2-3 地域経済循環マップ (「生産分析」 「影響力・感応度分析」)

- ▶ 次に、産業別の影響力係数・感応度係数 ( ) を見ると、「一次金属」、「輸送用機械」、「電気機械」、「その他製造業」は主力産業群として位置付けられる。
- ▶ これまでの分析結果を総合すると、「電気機械」及び「その他製造業」は地域経済の活性化という観点から非常に貢献度が高い産業と言える。



「影響力係数」とは、当該産業に対する新たな需要が、全産業（調達先）に与える影響の強さを示す。

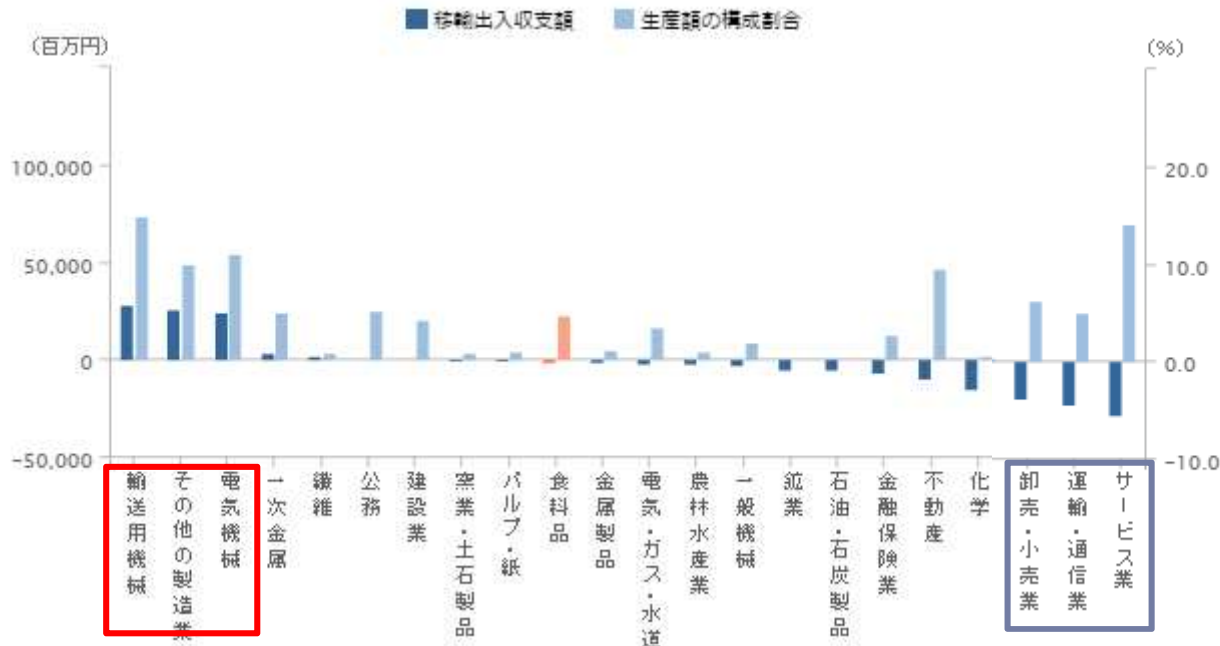
「感応度係数」とは、全産業に対する新たな需要による当該産業が受ける影響の強さを示す。

## 2-3 地域経済循環マップ (「生産分析」)

**ステップ3** 各産業の移輸出入額から、他地域産業への依存度を把握する。

- ▶ 産業別の移輸出入収支額を見ると、「輸送用機械」、「その他製造業」、「電気機械」等は財・サービスを市外に販売し、お金を市内に呼び込んでいる産業と言える。
- ▶ 他方、「サービス業」、「運輸・通信業」、「卸売・小売業」は、一部の財・サービスを市外から移輸入しており、これらを可能な範囲で内製化することで、域外へのお金の流出を抑えることができる。

行田市 産業別 移輸出入収支額 (2010)



## 2-4 産業マップ

### 分析フロー

#### ステップ1

付加価値額、雇用等の面から、各産業の地域経済への貢献度を評価する。

#### ステップ2

ステップ1で把握した産業について、他地域と比較し、優位性を評価する。

#### ステップ3

ステップ1で把握した産業に属する企業について、他地域との取引状況を把握する。

#### ステップ4

ステップ1で把握した産業に属する企業の中で、特に地域経済への貢献度高いと思われる企業を抽出する。

### 使用する主な機能

・ 全産業花火図（一部）  
付加価値額、従業者数 等

・ 稼ぐ力分析  
産業別特化係数  
散布図 等

・ 企業別花火図（ ）  
企業間取引（販売・仕入）等

・ 企業別花火図（ ）  
地域中核企業候補リスト 等

国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能な「限定メニュー」

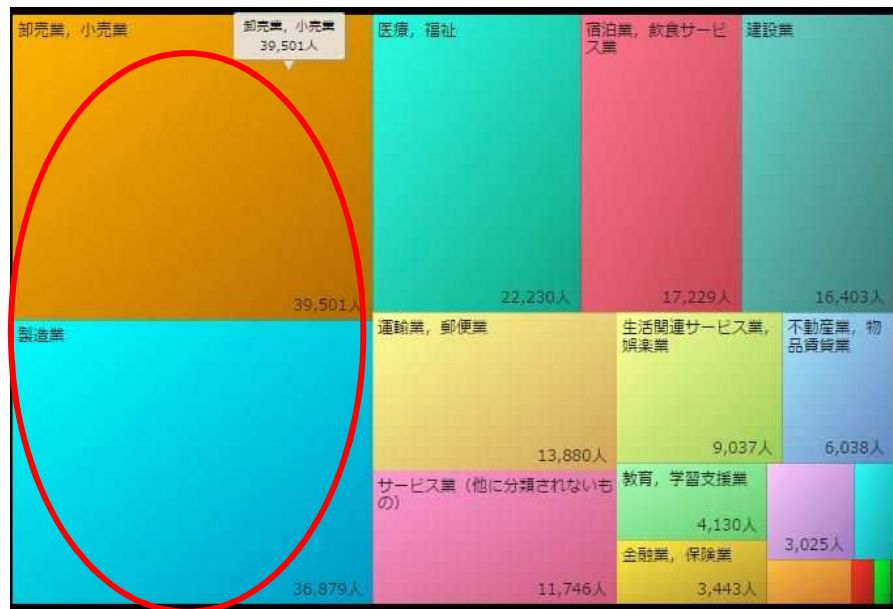


## 2-4 産業マップ (「全産業花火図」)

**ステップ1** 付加価値額、雇用等の面から、各産業の地域経済への貢献度を評価する。

- ▶ 「付加価値を多く生み出している産業」、「雇用を支えている産業」という2つの視点で川口市の地域経済を把握すると、卸売業、小売業と製造業（各赤丸囲み）の貢献度が目立つ。

川口市 産業大分類別 従業者数（事業所単位、2014年）



川口市 産業大分類別 付加価値額（企業単位、2012年）

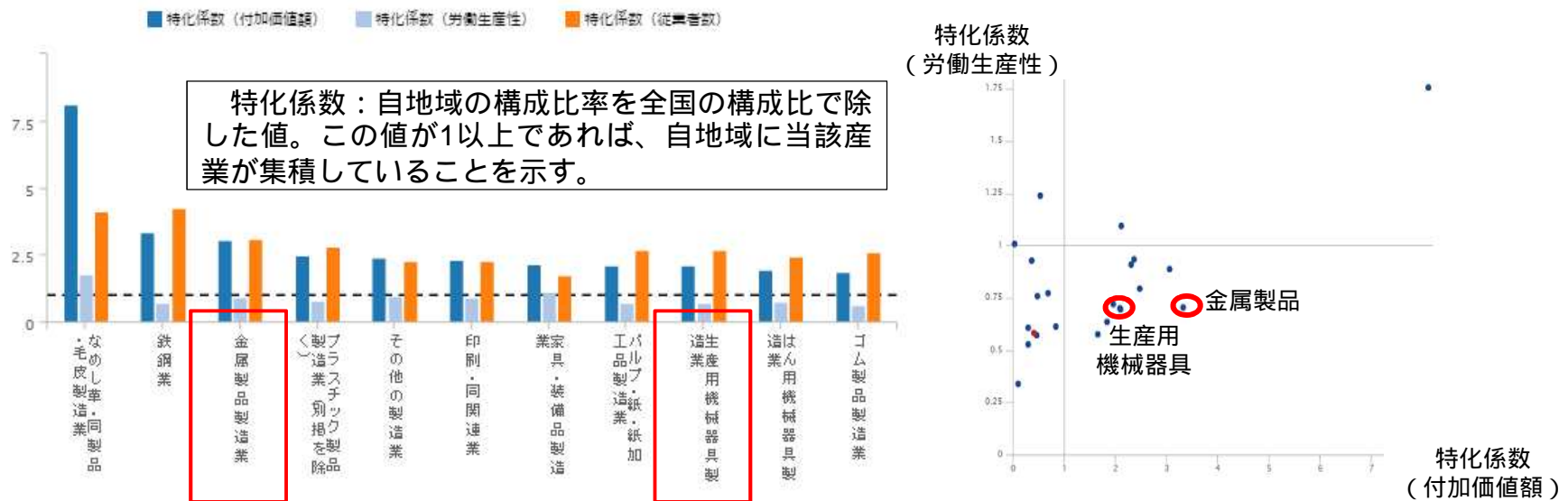


## 2-4 産業マップ (「稼ぐ力分析」)

**ステップ2** ステップ1で把握した産業について、他地域と比較し、優位性を評価する。

- ▶ 製造業の産業の集積度合を把握するために、「金属製品製造業」及び「生産用機械器具製造業」の特化係数（ ）を見ると、付加価値額と従業者数、両方において全国の比率を上回っており、川口市を特徴づける産業と言える。
- ▶ 他方、労働生産（従業者一人あたり付加価値額）については、全国の平均を下回っており、集積を活かして更なる生産性の向上が期待される。

川口市 産業中分類別 特化係数（企業単位、2012年）



## 2-5 農業マップ

### 分析フロー

#### ステップ1

農業部門別の販売金額から、自地域の農業の全体像を把握する。

#### ステップ2

販売金額や出荷先の傾向等から、農業者の稼ぎの実態を把握する。

#### ステップ3

農業の基盤である農地・農業者について分析し、農業を維持・発展する上での課題や可能性を整理する。

### 使用する主な機能

・ 農業花火図  
縦棒グラフ  
主要作物マップ 等

・ 農業販売金額  
産業別特化係数  
散布図 等

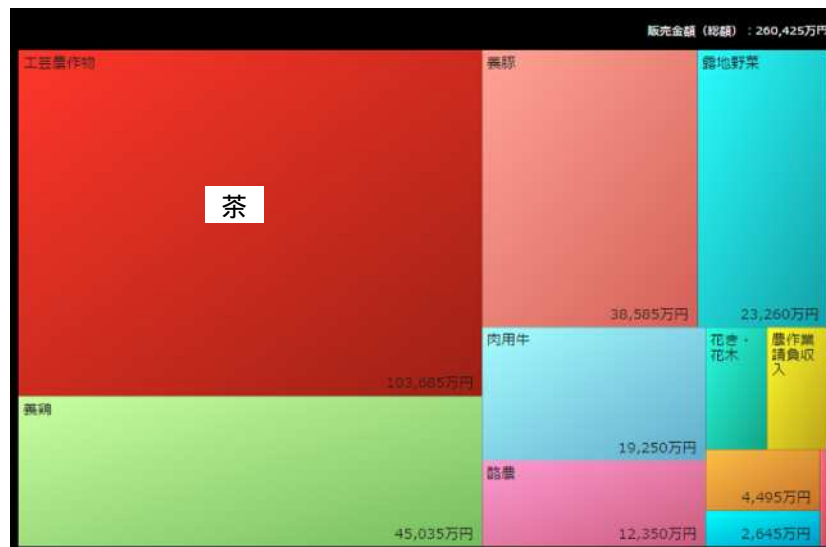
・ 農地分析 ・ 農業者分析  
経営耕地面積、耕作放棄地率  
年齢構成、農業生産関連事業  
の実施状況 等

## 2-5 農業マップ (「農業花火図」)

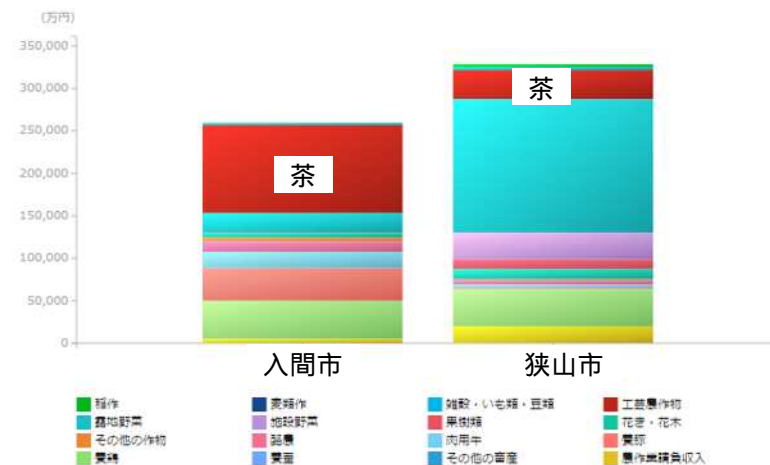
### ステップ1 農業部門別の販売金額から、自地域の農業の全体像を把握する。

- ▶ 入間市では「工芸作物（狭山茶）」、「養鶏」「養豚」、「肉用牛」で農業販売金額の79.3%を占めており、お茶と畜産が農業を支えていることがわかる。
- ▶ 販売金額を隣市の狭山市と比較すると、総額では及ばないものの、「工芸作物（狭山茶）」に関しては、3.03倍も多いことがわかる。

入間市 農業部門別販売金額 (2010年)



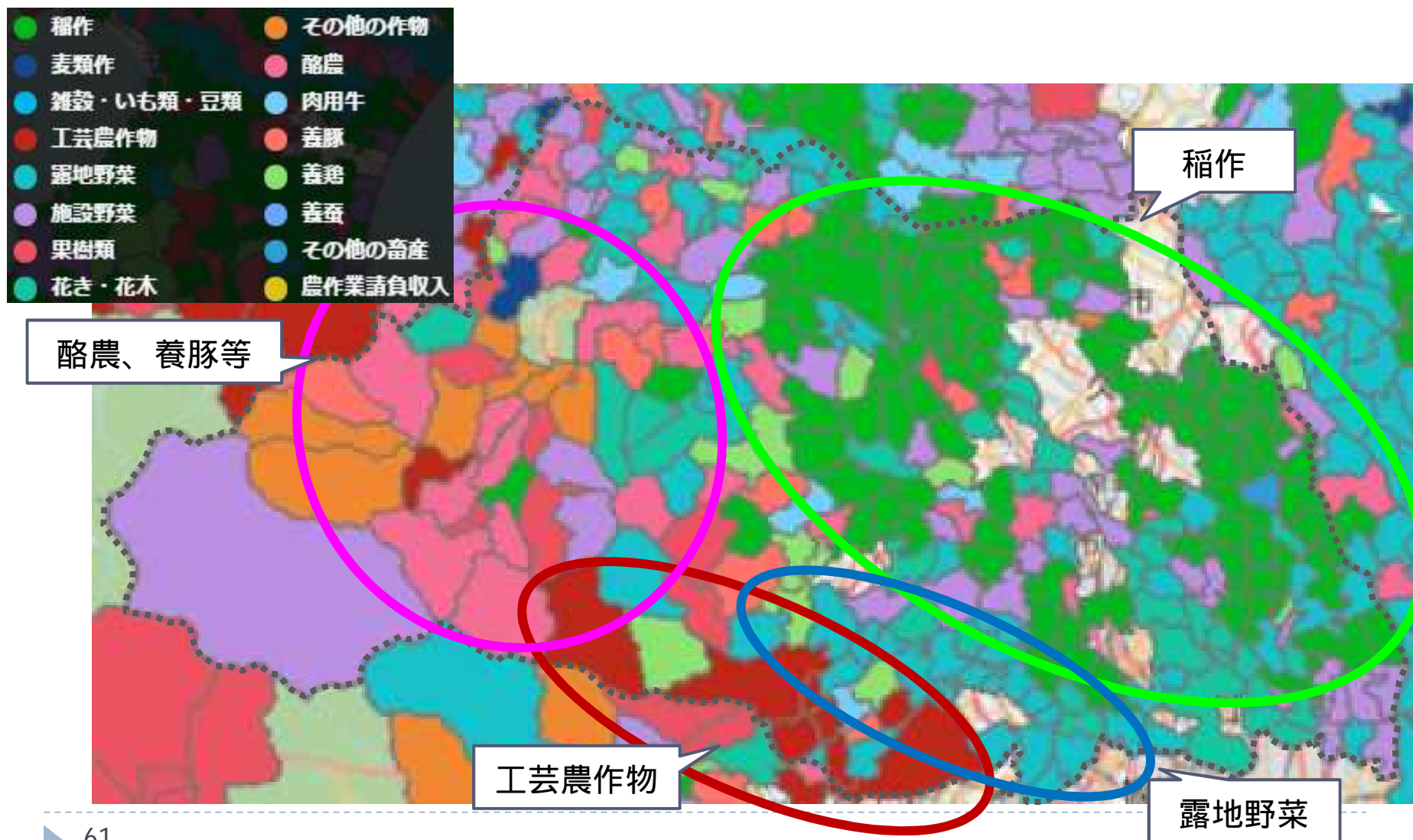
農業部門別販売金額 (2010年)



旧市区町村（昭和25年当時）単位のデータも取得可能  
 ○農産物の販売金額は右式による推計値。販売金額 = (各階層中位数 × 各階層経営体数)

## 2-5 農業マップ (「農業花火図」)

- ▶ 主要作物を旧市区町村（昭和25年当時）単位で色分けして表示することにより、地域ごとの特徴を捉えられるため、行政区を越えた連携を検討したりする際に役立つ。

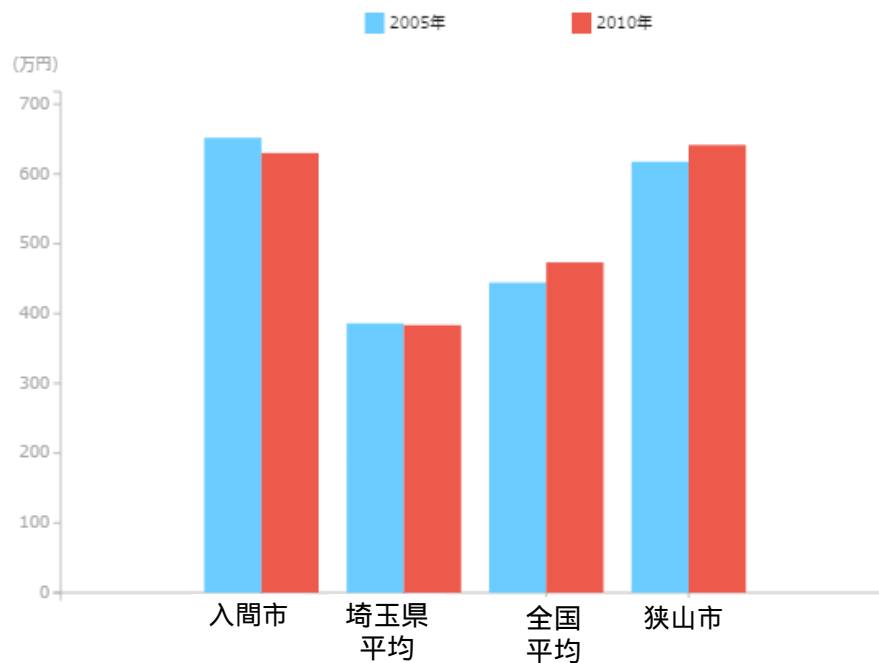


## 2-5 農業マップ (「農産物販売金額」)

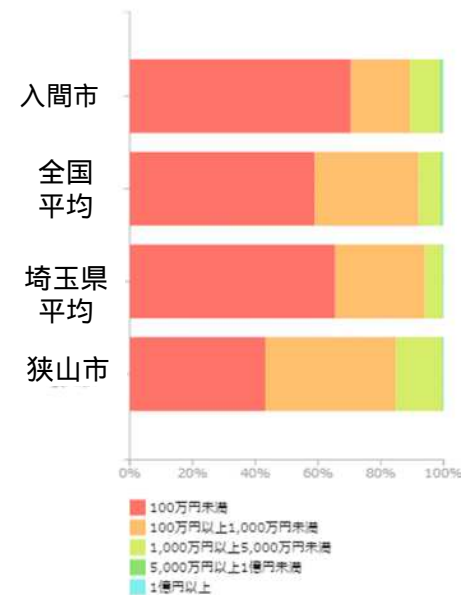
**ステップ2** 販売金額や出荷先の傾向等から、農業者の稼ぎの実態を把握する。

- ▶ 埼玉県及び全国平均と比較して、入間市は農業経営体あたりの販売金額が高く、狭山市も同様に高い。
- ▶ 一方で、販売金額帯別の経営体の割合を見ると、販売金額が「100万円未満」が多く、「1億円以上」稼いでいる一部の経営体の影響が大きいと考えられる。

経営体あたり農産物販売金額



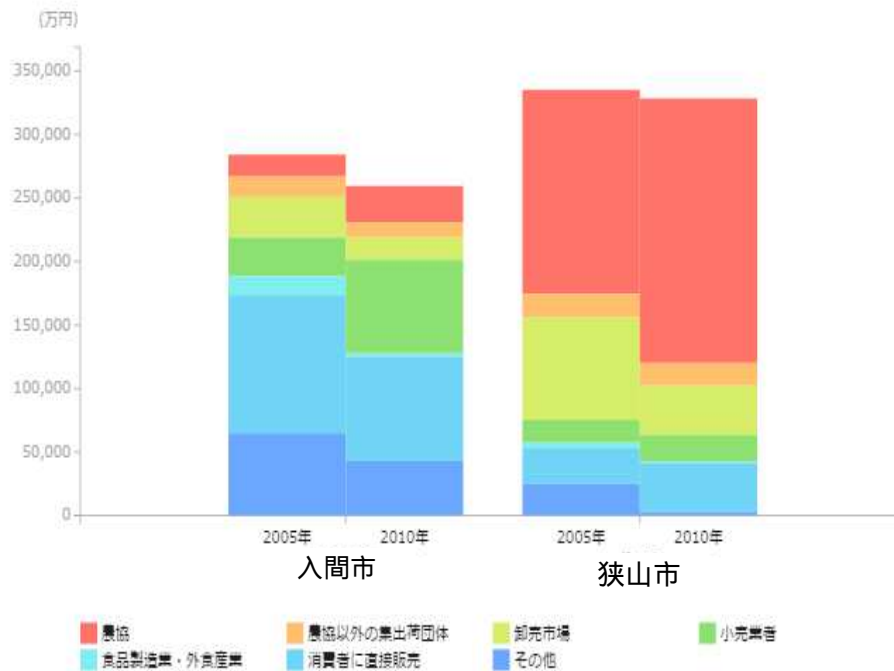
農産物販売金額帯別の経営体の割合 (2010年)



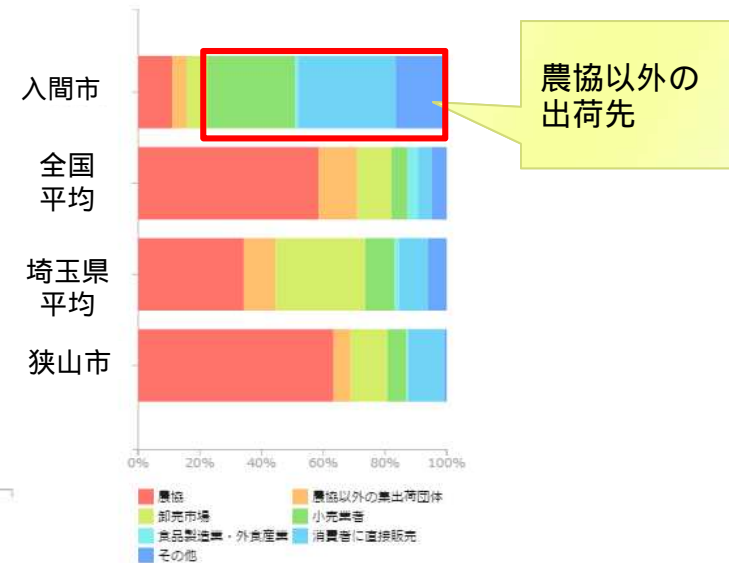
## 2-5 農業マップ (「農産物販売金額」)

- ▶ 入間市と狭山市の出荷先別の販売金額を比較すると、「農協」に出荷して稼いでいる狭山市に対し、入間市は「小売業者」や「消費者に直接販売」から稼いでいる。
- ▶ 出荷先別経営体数を比較しても、入間市は「農協」以外に出荷している農業経営体の割合が多く、入間市の農業は独自の流通ルートを構築していることが予測できる。

農産物の出荷先別販売金額の構成 (2010年)



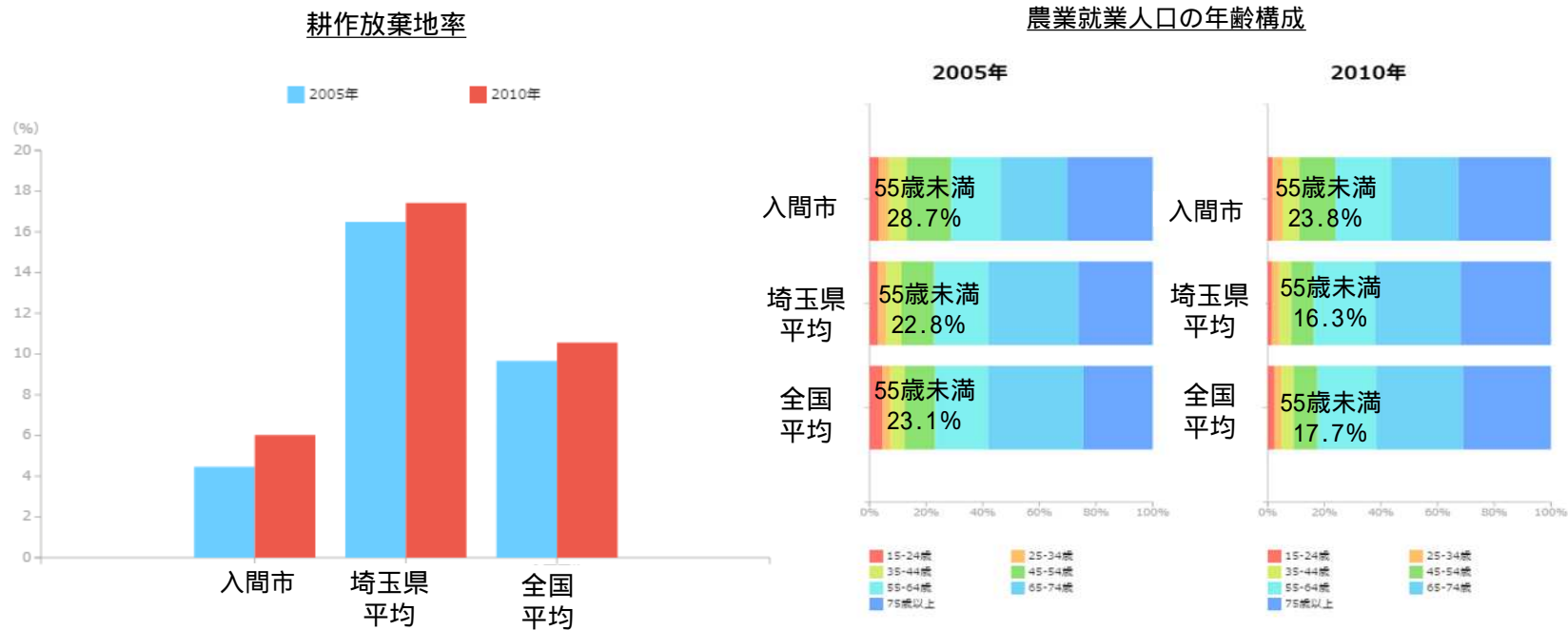
出荷先別経営体数の割合 (2010年)



## 2-5 農業マップ (「農地分析」、「農業者分析」)

**ステップ3** 農業の基盤である農地・農業者について分析し、農業を維持・発展する上での課題や可能性を整理する。

- ▶ 埼玉県及び全国平均と比較して、入間市は耕作放棄地率が低く、55歳未満の農業就業人口の構成比も高くなっている。
- ▶ 他方で、2005年から2010年にかけての推移を見ると、耕作放棄地率は増えており、55歳未満の農業就業人口の構成比も低くなっており、農業を維持・発展させる上で農地の有効活用と担い手の育成は課題として挙げられる。

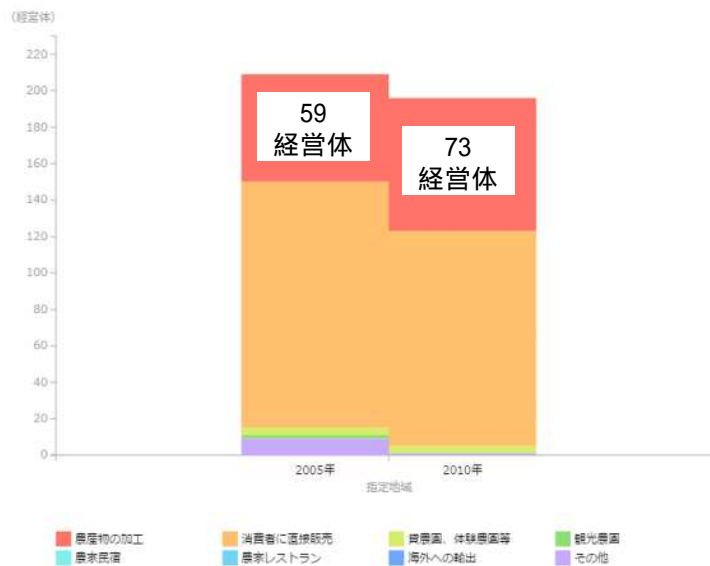




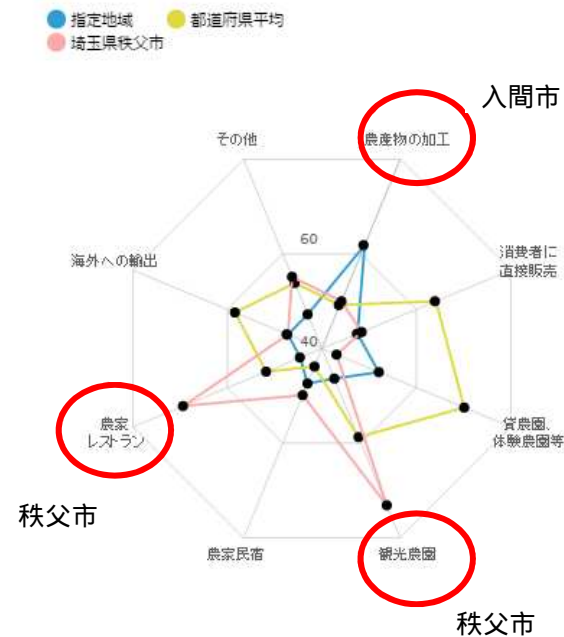
## 2-5 農業マップ (「農業者分析」)

- ▶ 入間市の農業生産関連事業の実施状況を見ると、「農産物の加工」に取り組んでいる経営体が比較的多く、「経営体あたり販売金額」が高い一因になっていると予測される。
- ▶ 秩父市では、「農家レストラン」、「観光農園」に取り組んでいる経営体が比較的多く、これらの取組と観光産業の連携を促進することで、地域経済の更なる成長が期待できる。

農業生産関連事業の実施状況  
(経営体数)



農業生産関連事業の実施状況  
(レーダーチャート)



## 2-6 消費マップ

---

### 分析フロー

#### ステップ1

購入金額（地域別商品割合）から、自地域の消費の全体像を把握する。



#### ステップ2

自地域で生産された商品がどこで消費されているかを把握する。

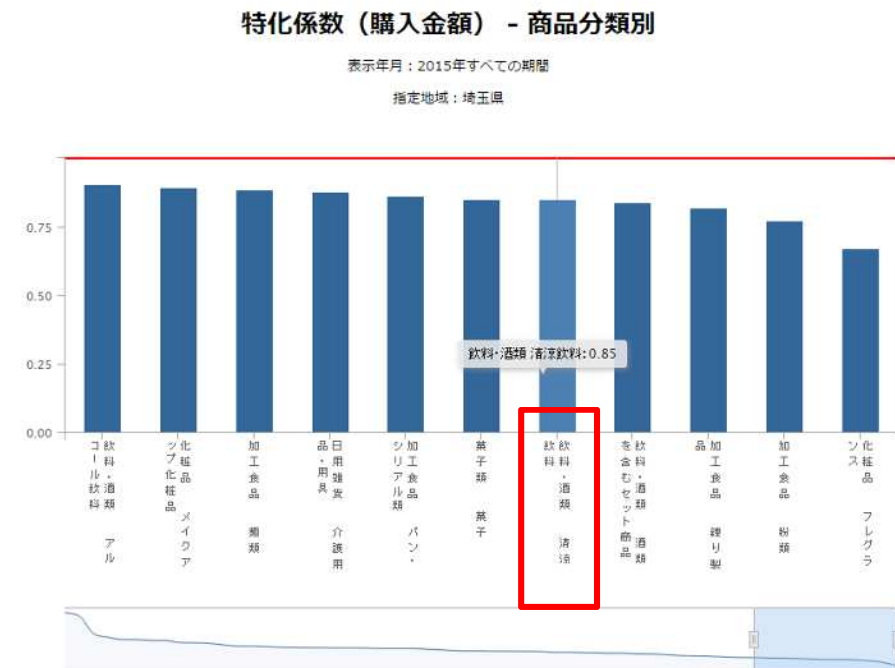
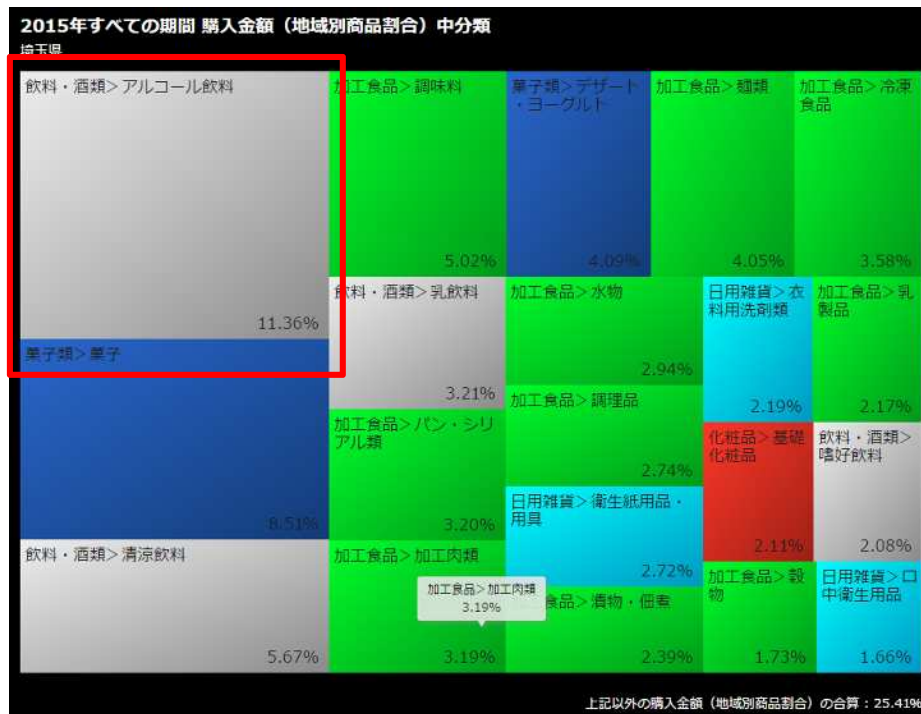
### 使用する主な機能

- 購入金額  
消費花火図  
特化係数でみる 等
- From-to分析（消費動向）  
地産品の消費地別割合 等

## 2-6 消費マップ (「消費花火図」・「消費花火図」 「特化係数」)

**ステップ1** 消費される商品分類ごとに、消費されている商品の購入金額や購入人数、購入点数を把握する。

- ▶ 収集されているデータ(小売店等のPOSデータ)においては、アルコール飲料の購入額が最も多い。
- ▶ ただし、特化係数を見ると0.85と低く、全国に比べてシェアは低いことに留意が必要。



## 2-6 消費マップ (「From-to分析」・「From-to分析」 「グラフを表示」)

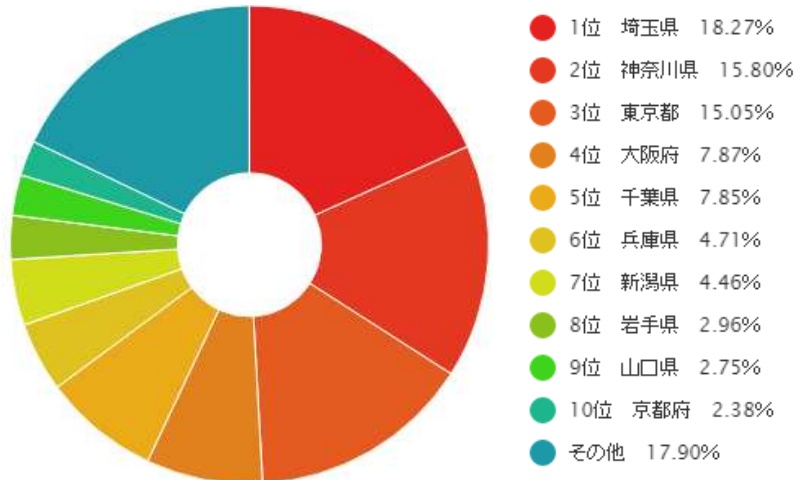
**ステップ2** 消費される商品分類ごとに、県内製造品の消費地を分析する。  
(ともに都道府県単位。)

- ▶ 埼玉県内で生産される「清酒」のうち、18.27%が県内で消費されている。
- ▶ 近年、大阪府での販売が好調であり、シェアが伸びている。

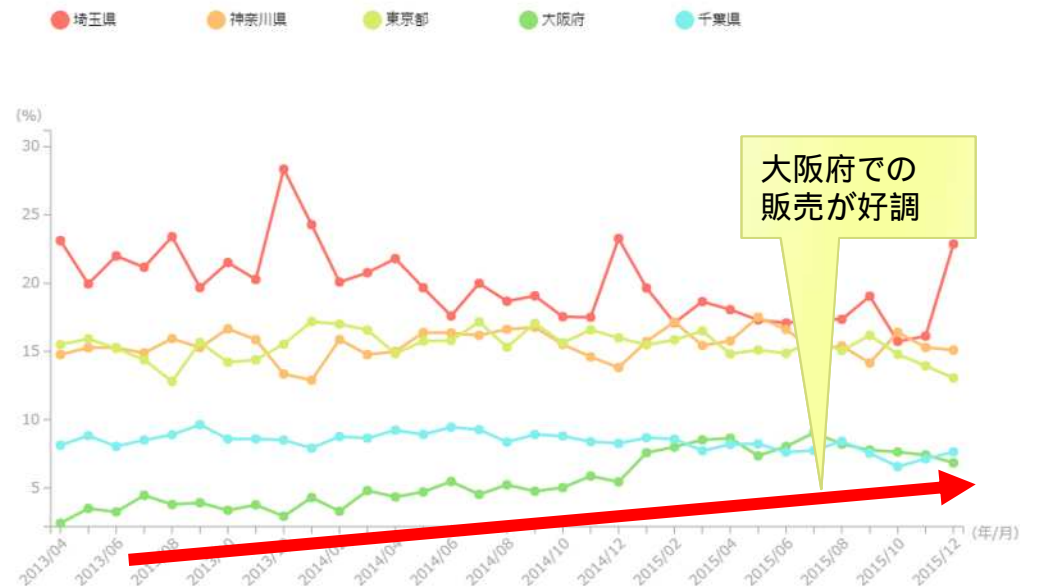
### 地産品の消費地別割合

2015年すべての期間  
指定地域：埼玉県

指定分類：飲料・酒類>アルコール飲料>清酒



### 地産品の消費地別割合の推移



## 2-6 消費マップ ( 「From-to分析」 ・ 「From-to分析」 「グラフを表示」 )

**ステップ2** 同様に、県内で消費される商品の生産地について把握する。

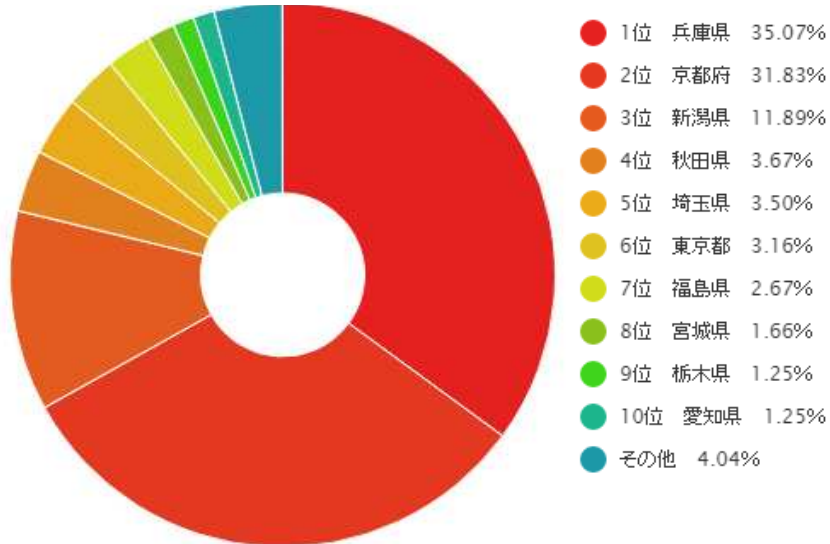
- ▶ 埼玉県内で消費される「清酒」について、兵庫県や京都府での生産品を運んで消費する額が多く、県内で生産されたものは3.5%のシェアにとどまる。

### 指定地域内の商品生産地別割合

2015年すべての期間

指定地域：埼玉県

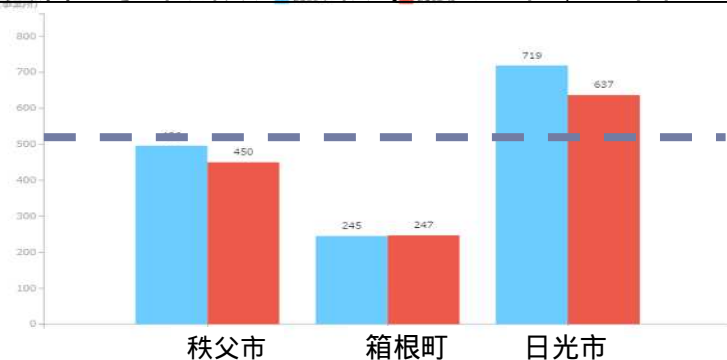
指定分類：飲料・酒類>アルコール飲料>清酒



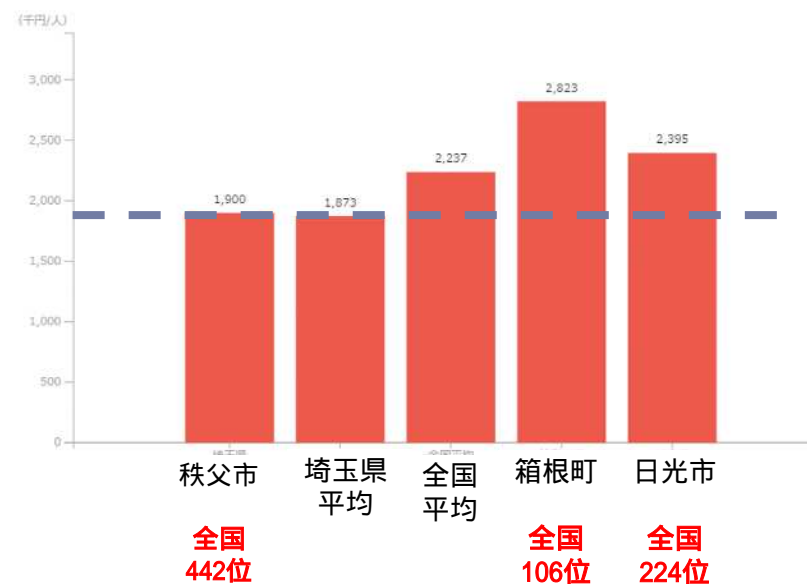
## 2-7 自治体比較マップ

- ▶ 様々な指標に基づき、全国約1800ある自治体の中でのランキングや他の自治体との比較を「見える化」し、自地域の強み・弱みを把握することで、どの分野を今後強化していくべきかがわかるようになる。
- ▶ 例えば、秩父市の観光産業の特性を把握するために、近隣の観光地と比較すると、宿泊業に関しては量（事業所数）、質（労働生産性）の両面で低く、観光を通じた地域経済の活性化を促進する上での課題と言える。

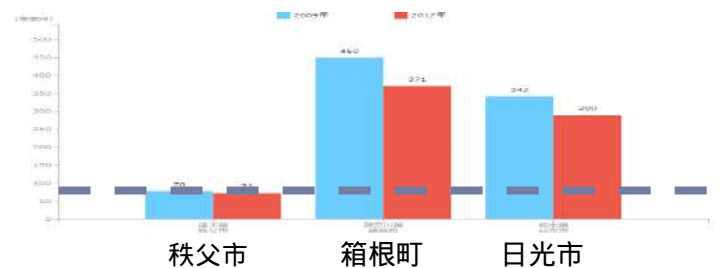
飲食店 事業所数の比較（県内17位、全国290位）



宿泊業 労働生産性の比較



宿泊業 事業所数の比較（県内2位、全国174位）



## 3-1 RESAS以外の官庁系オープンデータの紹介

### 地図による小地域分析「jSTATマップ」 (総務省統計局、独立行政法人統計センター)

- ▶ 政府統計の総合窓口「e-Stat」における小地域データを提供。分析用に「駅から15分圏」といった圏域設定も可能。
- ▶ 各種データのアップロード・ダウンロードとともに、サーバー内にデータ保存も可能。

- ① 利用者の保有するデータを取り込んで分析する機能  
(shpファイルのアップロードによるマージ等)
- ② 任意に指定したエリアにおける統計算出機能
- ③ 地域分析レポート作成機能

- ・ API対応。
- ・ タブレット端末用アプリ「マップDe統計」も提供

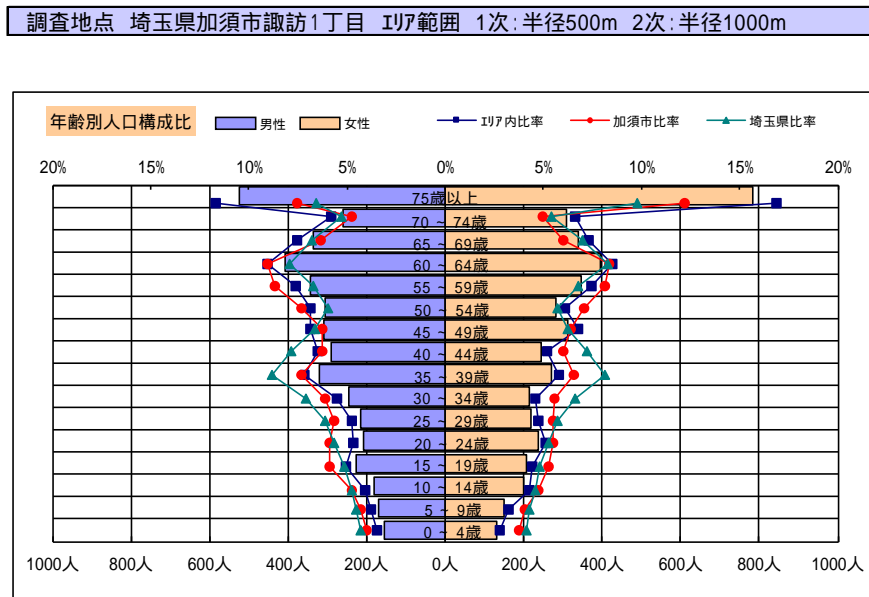


# 3-1 RESAS以外の官庁系オープンデータの紹介

▶ RESASに搭載されている以外のデータ活用例を紹介。

j STAT MAP (地図による小地域分析) を活用した商圈人口分析 (例: 加須駅周辺)

<https://jstatmap.e-stat.go.jp/gis/nstac/>



データ名	人口				
	1次エリア	2次エリア	3次エリア	加須市	埼玉県
人口総数	2,518	9,133		115,002	7,194,556
男人口	1,250	4,488		57,241	3,608,711
女人口	1,268	4,645		57,761	3,585,845
75歳以上	331	1,309		11,336	586,882
70-74	147	567		5,572	383,654
65-69	181	677		7,063	494,324
60-64	239	800		9,998	580,218
55-59	209	689		9,643	482,672
50-54	163	589		8,298	418,643
45-49	180	621		7,284	462,165
40-44	140	531		7,048	538,984
35-39	178	590		7,961	606,464
30-34	134	458		6,717	491,671
25-29	120	433		6,378	423,019
20-24	131	447		6,534	389,023
15-19	125	431		6,402	356,249
10-14	89	382		5,450	334,605
5-9	84	320		4,803	317,477
0-4	65	283		4,445	301,586
年少人口(0歳~14歳)	238	985		14,698	953,668
生産年齢人口(15歳~64歳)	1,619	5,589		76,263	4,749,108
老年人口(65歳以上)	658	2,554		23,971	1,464,860
15歳以上就業者数	1,226	4,454		58,011	3,482,305
後期高齢者数(75歳以上)	331	1,309		11,336	586,882

任意で選択した中心から半径1キロ以内の基礎分析 (グラフ、表が自動的に作成される)

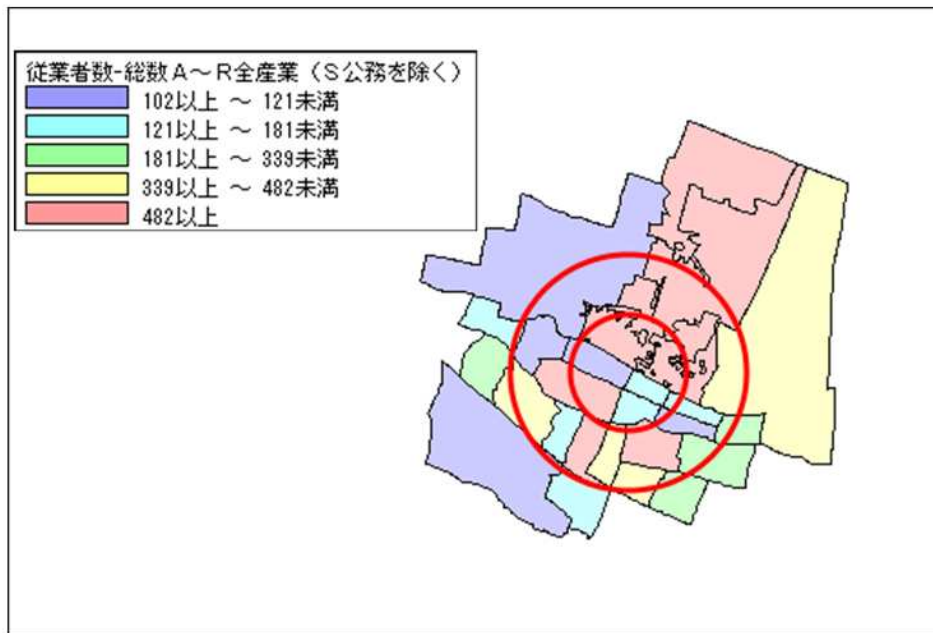


# 3-1 RESAS以外の官庁系オープンデータの紹介

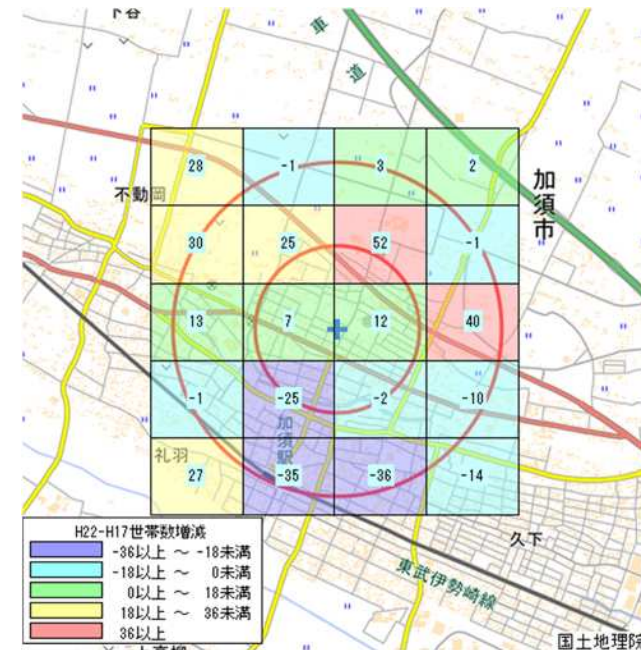
▶ RESASに搭載されている以外のデータ活用例を紹介。

j STAT MAP (地図による小地域分析) を活用した商圈人口分析 (例: 加須駅周辺)

<https://jstatmap.e-stat.go.jp/gis/nstac/>



任意で選択した中心から半径 1 キロ以内の従業員数  
(昼間の購買力予測に有効)



5 年間の世帯数増減  
( 商圈の成長可能性 )

# 3-1 RESAS以外の官庁系オープンデータの紹介

## GISホームページ（国土数値情報等） （国土交通省国土政策局）

- ▶ 公共施設や道路、医療施設や役場、標高や都市計画制限など、多様な国土数値情報などをシェープ形式等で配信。

- ・ 位置参照情報  
ダウンロード  
サービスも有り
- ・ 国土情報ウェブ  
マッピングも  
可能

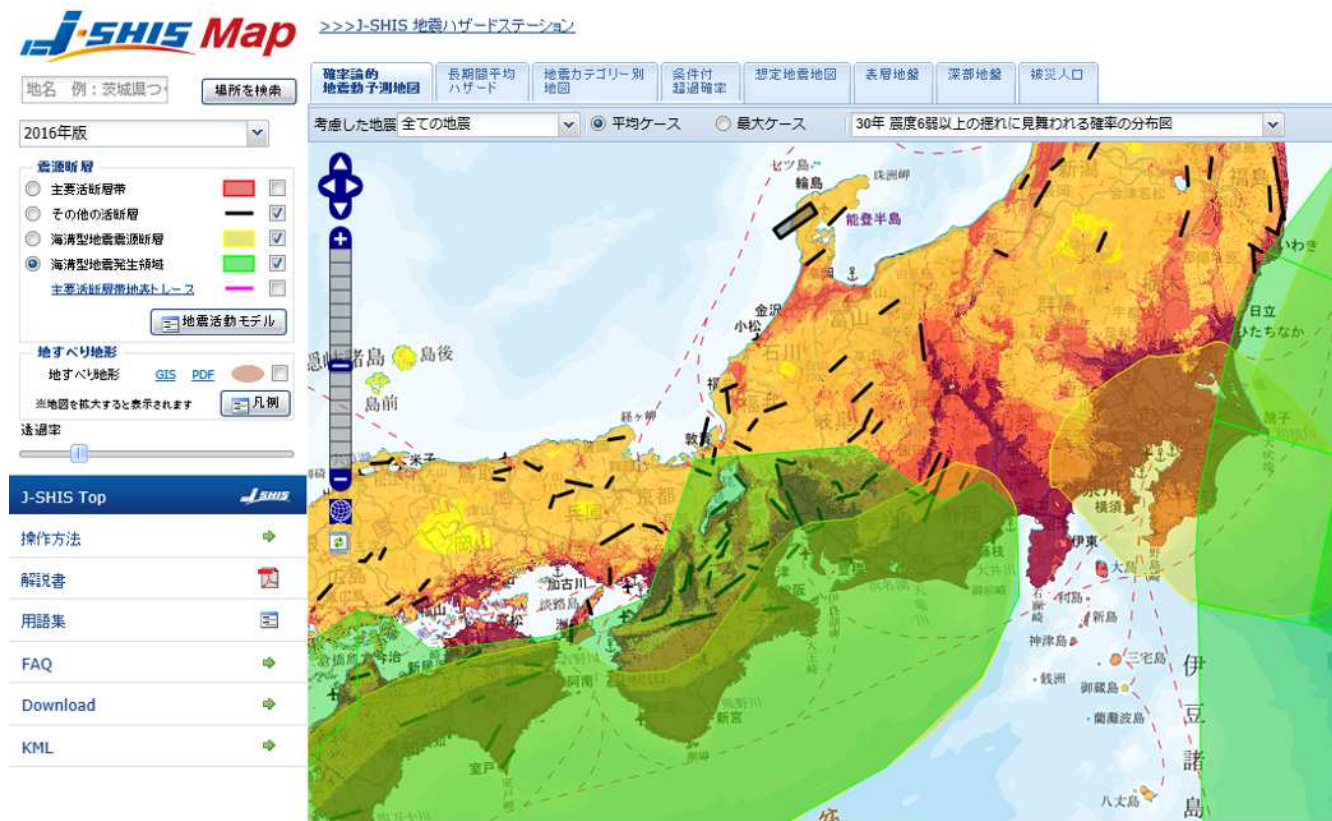


# 3-1 RESAS以外の官庁系オープンデータの紹介

## 地震ハザードステーション「J-SHIS Map」 (国立研究開発法人 防災科学技術研究所)

- ▶ 「全国地震動予測地図」など、各種情報を簡単に閲覧することができるオープンソースソフトウェアによるWebマッピングシステム。

- 活断層等のshpファイルをダウンロード可能
- 地震ハザード情報提供API (250mメッシュ) など、各種APIに対応



# 【紹介】本事業の様子を発信するFacebook

- ▶ 埼玉県庁HP (<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0102/resas.html>)にて、本事業の取り組みを紹介中。
- ▶ 事業の詳細は専用FBページ (<https://www.facebook.com/saitamaresas/?fref=nf>)

The image shows a screenshot of the Saitama Prefecture website and its Facebook page. The website part on the left displays the '平成28年度の取組' (Activities in Heisei 28) section, listing four items: 1. RESAS-based analysis support, 2. RESAS training for prefectural and municipal staff, 3. RESAS普及 promotion for universities and high schools, and 4. RESAS普及 promotion for NPOs and citizens. Below the list are three photos of people working at computers. A red box highlights a text block that says: '本事業の取組状況については以下facebookを通じて紹介をしています。コチラ>> 埼玉県地域経済分析システム普及支援事業事務局' (For details of this project, please refer to the following Facebook page. Here >> Saitama Regional Economic Analysis System普及支援事業事務局). A red arrow points from this text to the Facebook page on the right. The Facebook page is for '埼玉県地域経済分析システム普及支援事業事務局' (@saitamaresas) and features a post from June 10th about the project's activities and a photo of staff working at computers.